



LAOS 100

ラオスの有力ビジネスパーソン 100人

- 後編 -

JETRO

はじめに

2016年4月から開始した「ラオス100」と称するラオスの有力ビジネスパーソン100人へのインタビュー記事の作成は、本誌である後編50人の選定とインタビューを経てここに上梓いたします。

本誌で取り上げるラオスの有力ビジネスパーソンは、日本企業による事業パートナー候補の選定の際の一つの情報として是非ご活用ください。本誌における有力ビジネスパーソンとは必ずしも大企業の経営者だけを意味するのではなく、①各セクターにおけるリーディングカンパニー、もしくはその潜在力を有し将来性が見込めること、②ラオス社会において評判が高く、信頼性のある企業および経営者であること、③日本企業との連携を積極的に模索して

いること、の3点を重視して選定いたしました。可能な限り多様なセクターをカバーし、誌面では経営者の人物像についても出来るだけ浮き彫りにすることに努めました。結果、ラオスでは事業体の99.8%が中小企業であることも反映し、100選の多くは中小企業で占められています。また、1975年のラオス人民民主共和国設立以降に生まれた若き経営者が多いこと（39人）、また女性経営者が比較的多いこと（29人）は近年急速に発展するラオスの経済状況や女性の社会進出の高さを示す興味深い結果となったと感じています。

ラオスは第8期社会経済5か年計画において、2020年には一人当たりGDPを約3,000ドルへと拡大させる計画です。また、ビエンチャン

首都では2017年に一人当たりGDPは5,000ドルを超え、2020年には6,500ドルを超える見通しです。個人消費も増加しつつあり、これを機として様々なビジネスが胎動し始めており、本100選の企業にも積極的な動きが見られます。

もし本誌に掲載した企業への連絡を希望される方がいらっしゃいましたら、ジェトロ・ビエンチャン事務所へと是非ともご相談ください。本誌が皆さまのラオスにおけるビジネス展開に、少しでもお役に立てることを期待しております。

最後に改めてインタビューに快く応じ取材をさせていただいた有力ビジネスパーソンの皆様、ならびに本誌の作成にご協力を頂いた皆様に深く感謝を申し上げます。

2018年3月

ジェトロ・ビエンチャン事務所



掲載企業リスト

業種分類表 (右ページ)



… 中核事業



… その他の事業

企業名	ページ
A.C.E. Consultancy Co., Ltd. / Savan Logistics Co., Ltd.	06
AMZ Group Co., Ltd.	07
Balamy Trading Export-Import Co., Ltd.	08
BCEL (Banque Pour Le Commerce Exterieur Lao Public)	09
Century21 Real Pro Co., Ltd.	10
Chinda Silk & Cotton Crafts	11
D.S.K Group	12
EDL-Generation Public Company	13
Ekphatthana Microfinance Institution (EMI)	14
Events for Good	15
Exo Travel Laos Co., Ltd.	16
GoodLife Sports Complex	17
Her Works	18
Hung Huang (Lao) Logistics Co., Ltd.	19
iJobs Company Ltd.	20
Indee Record / Samart Event Organizer	21
KPN Pharma Sole Co., Ltd.	22
Lao Airlines	23
Lao Art Media Co., Ltd.	24
Lao Beverage Sole Co., Ltd.	25
Lao Brewery Co., Ltd.	26
Lao Dairy Farm	27
Lao Derm Restaurant & Handicraft	28
Lao Medical Care Clinic (LMC Clinic)	29
Lao Mobile Group Co., Ltd.	30

農林・水産・畜産	鉱業	建設	製造	電気・ガス・水道	情報通信	運輸・郵便	卸売・小売	金融・保険	不動産	コンサルティング	生活・飲食・娯楽	教育・学習支援	医療・福祉	その他サービス
						●	●	●	●	◎				
●		●					●		●	◎				
			●				◎							
								◎						
									◎					●
			◎						◎	●		●		●
		◎	●	●			●		●					
				◎										
								◎						
														◎
							●		●					◎
														◎
			◎				●							
						◎								
											●			◎
														◎
●			◎											
						◎								
					◎									●
							●	●			◎			
			◎											
●			◎											
			●				●				◎			
													◎	
							◎							

掲載企業リスト

業種分類表 (右ページ)



… 中核事業



… その他の事業

企業名	ページ
LDC IMPORT-EXPORT Co., Ltd.	31
寮都産業株式会社	32
MV International Co., Ltd.	33
Phakan's Clinic	34
Phasouk Group	35
Pho Zap	36
Phonesavanh Import & Export Co., Ltd.	37
Phousy Group	38
Phutawen Tourism Co., Ltd.	39
ProCon Co., Ltd.	40
Santiphab Sangkasi Lao Co., Ltd.	41
Savanvaly Trading Import-Export Co., Ltd.	42
Sayam International Co., Ltd.	43
SI Hospitality Consultings	44
T.S.K Dental Center Sole Co., Ltd.	45
Thansamay Co., Ltd.	46
The Bolaven Plateu Coffee Producers Cooperative	47
Thong Sang Nang Driving School	48
TK Group Sole Co., Ltd.	49
Top Value Service Sole Co., Ltd.	50
TV Lao Co., Ltd.	51
VEEC Group	52
WOW Magazine Society	53
Xang Lao Engineering Consultants Ltd.	54
XP Trading Lao-Chine Co., Ltd.	55

農林・水産・畜産	鉱業	建設	製造	電気・ガス・水道	情報通信	運輸・郵便	卸売・小売	金融・保険	不動産	コンサルティング	生活・飲食・娯楽	教育・学習支援	医療・福祉	その他サービス
							◎							
							◎			●				
					◎									
												◎		
		◎	●				●		●					
										◎				
							◎		●		◎			
	●	◎		●					●					
●														◎
		◎												
			◎											
							◎							
							◎	●	●		●			●
														◎
							●						◎	
		◎							●					●
◎							●							
														◎
		●		●	◎		●		◎					
					◎					●		●		
			◎		◎									
			◎				●					●		
		◎												◎
		◎					●		●					
◎			●				●							●



ラオス経済界に幅広い人脈。

A.C.E. Consultancy Co., Ltd. / Savan Logistics Co., Ltd.

Mr. Daovone Phachanthavong / President, MD

【略歴】1953年生まれ、ビエンチャン出身。パーパスック職業訓練学校で会計を習得。75年から経営担当としてピアラオに7年間勤務。1982年からは商工省会計局長として8年間務める。1989年に独立し、現在の中核企業A.C.E. Consultancy社を設立。多岐に渡る事業展開を行っている。ラオス商工会議所副会頭、スイス名誉領事、中小企業基金理事等を務める。

コンサルティング

不動産

金融・保険

卸売・小売

運輸・郵便

御社の事業内容は？

1989年に商工省を早期退職し、会計・英語・コンピューターなどの技能教育事業を行う Account Consultancy Enterprise社を立ち上げました。その後、現在の中核企業となるA.C.E. Consultancy社の設立以降、様々な分野の事業立上げや投資を行っています。主なグループ企業としては、複合機などで有名な日本のリコー製品の正規代理店 ACE Equipment社や、運輸サービスや内陸コンテナデポ(ICD)を展開するロジスティック企業の Savan Logistic社があります。また、10ヘクタールの天然ゴム園を所有し、ペット用カメの飼育と輸出も行っています。投資分野ではピアラオとの強い協力関係を活かしており、ラベル印刷、ダンボール製造、ラオス唯一のペットボトルのプリフォーム成形工場の主要株主になっています。その他にも、保険、証券をはじめ、不動産開発事業などにも出資しています。

コンサルティング事業は？

企業登録やライセンス取得の他、様々な企業の顧問を務めています。会計学校を通してこれまで5,000人以上の生徒に会計を指導しており、各界で活躍している者も多く強いネットワークを持っているのが強みです。サワン・セノ経済特区内の製造工場の顧問も務めました。また、私自身、

ラオス商工会議所副会頭（常任理事）をはじめ、さらに中小企業基金理事、環境基金理事、パーパスック職業訓練学校諮問委員長、オリンピック委員やテニス連盟主席を担っています。これまでのラオス社会への貢献が評価されたものと考えています。

ロジスティック部門は？

当社のロジスティック部門はMMG LXML社（中国五鉱集団）がセボン鉱山で採掘する銅の保管と輸出、採掘に利用される硫酸の輸入と輸送を担うことから事業を開始しました。今ではグループ内売上のうち約30%を占める主力事業に育っています。また、2016年にはラオス初となるICDを、サワンセノ経済特区内に設立しています。サワンセノ経済特区は東西経済回廊の重要拠点である南部のサワンナケート県に立地しています。現在、私たちが運営するICDを、共

通検査エリア(CCA)とするためラオス政府と協議を重ねている所です。また、将来的には中国国境のナトゥイなどへICDビジネスを拡大したいと考えています。

日本への期待は？

当グループではリコー製品を扱っており、傘下の印刷会社では日本製の印刷機を導入しています。日本の製品に対する信頼感はとても厚く、ラオス市場での可能性は高いでしょう。現在は日本の文房具の扱いに興味を持っています。日本製文房具は高品質な割に値段が抑えられており、ラオスでも販売可能だと思っています。また、ラオスに進出を図りたい日系の会計会社があれば、是非ともご相談いただければと思っています。会計サービスの充実は、ラオスの経済発展に必要不可欠だと考えていますので協力したいと思います。



①エプソン製品の販売店には製品知識を持ったスタッフが常駐。②リコー製品のショールーム。③印刷工場外観。④印刷工場では最新の印刷機を導入している。

DATA

所在地： 10/2 Mathathurath Road, Chanthabury District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-217546

設立年： 1989

ホームページ： www.savanlogistics.com



若い視点で日本企業の進出をサポート。

AMZ Group Co., Ltd.

Mr. Alivan Sithara / CEO & President

【略歴】1985年生まれ、ビエンチャン出身。小中学時代をベトナムで過ごす。2000年頃から父の仕事の関係で日本とラオスを往復する生活。2003年、日本でアムズインターナショナル設立。2008年、ラオスにて不動産・ホテル事業を開始。「ラオスから世界へ」がモットー。ラオス科学技術省基準局・ラオス国家標準証明・品質検査センター副会頭。ビエンチャンロータリークラブ副会頭。

コンサルティング

農林・水産・畜産

建設

卸売・小売

不動産

御社の事業内容は？

当社は日本の建機・中古車の貿易業からスタートした会社で、東京に拠点を持っています。2010年にはコンサルティング事業にも乗り出し、現在はラオスに本社を置き、日本企業のラオス進出をサポートしています。IT、物流、旅行代理店、レストラン業では積極的に出資を行っており、日本企業の事業推進に協力しています。現在はタイや中国にも事業を展開しています。また、ホテルや不動産、建設事業などにも参入し、農業分野でも輸出向け商品の栽培を行う独資企業を設立しています。さらに養鶏事業にも取り組んでいます。

品質管理への取り組みも？

私個人としては、科学技術省基準局のラオス国家標準証明・品質検査センター（LNSCQIC）の副会頭も務めています。このセンターはラオスにおける品質管理基準を策定する団体で、主に石油・ガソリン、タイヤなどの粗悪品がラオスに流入するのを防ぐ取り組みに携わっています。

今後の展開は？

農業とIT事業に力を入れたいです。海外技能実習生派遣のライセンスを取得しましたので、農業実習生の日本への派遣を始めます。一方通行の派遣ではなく、帰国した実習生

が日本で学んだ技能を活かせる場を提供することも視野に入れています。当社ではビエンチャン県近郊に広大な土地を保有しており、現在はハト麦、米、トウモロコシなどを栽培しています。帰国した実習生にはこの土地でジャポニカ米を栽培してもらい、日本酒醸造にも取り組み、アジア各国に輸出する計画です。IT事業については、2016年の日本政府のプロジェクトがきっかけで興味を持ちました。この事業はラオス初のコンテナ型クラウド・データセンターを開発するプロジェクトで、電力が豊富で災害も少ないラオスは安定したITインフラ基地になりえます。今後はラオス科学技術省とのタイアップのもと、ラオス国内でITパーク構想を進めたいと考えています。世界各国のITベンチャー企業を誘致し、ラオスで開発・製造したものを、海外に展開する。そんなスキームの実現を目指しています。

日本企業へのメッセージ

日本はラオスに必要なものが溢れる近未来のような国です。当社は「ラオスから世界へ」をモットーに、日本の最先端技術を用い、環境を守りながら、多くの分野でラオスの発展に貢献したいと願っています。現在注目しているのは、ラオスの原料を活用した加工製品を開発し、周辺国へ輸出するスキームの開発です。インドシナ半島の中心に位置するラオスの商圏は大きく、様々な物品の調達先として、インドシナで重要な地位を占めると考えています。日本企業の皆様には、ラオスを内陸の小さな国と捉えるのではなく、近隣5カ国に繋がるポテンシャルのある投資先としてご興味を持って頂きたいと思います。各分野への積極的な進出を希望すると共に、弊社もビジネスをご一緒にさせて頂きたいと考えています。



①日本人パートナー常駐のバー「どれすでん」、2階には関係会社「H.I.S.」。②イタリアントマト、1号店オープン・フランチャイズ認定式。③日本での講演会の様子。④データセンター。

DATA

所在地： P.O.Box 6111, Unit 19, Ban Beungkhayong Tay, Thadeua Road, Sisattanak District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-316097

設立年： 2012

ホームページ： www.amzgp.com



日用品の輸入卸売で市場を開拓。

Balamy Trading Export-Import Co., Ltd. Mr. Soumano Chounlamany / MD

【略歴】1983年生まれ、ビエンチャン出身。高校までビエンチャンのフランス語学校（リセ）で学ぶ。2004年からタイのアサムプシオン大学へ留学（テクノロジー・マネジメント学士）。2009年、母親が経営する製塩工場の Veunkham Salt へ入社。2012年に同系列の Balamy Trading 副取締役、2018年から代表取締役に就任。

卸売・小売

製造

御社の事業内容は？

当社は食品や日用品の輸入販売事業を行っています。調味料や菓子、シャンプーや洗剤、清掃用品等、約480品目を扱っています。従業員数は27名。首都ビエンチャンと南部パクセーに営業所と物流拠点を置き、全国の小売店やコンビニチェーンへ卸しています。取り扱う商品は主にタイ経由で輸入しており、その多くの品目でラオス国内の独占代理店契約を締結しています。最近では、キューピーがタイで製造するマヨネーズや酢、ドレッシングなど、日本ブランドの取り扱いも始めています。ラオスでは常温で長期保存の利くタイのブランドがマヨネーズ市場を独占してきましたが、当社が輸入する商品は保存料を使用せず味が良いことが特徴です。サラダやタコ焼き、BBQなど、ラオスの人々へ食べ方を提案することで売上が伸びてきました。更に、日系製薬会社が韓国で生産しているエナジードリンクの取り扱いも開始しています。現在、力を入れているのは乳幼児製品の販売です。安全性への意識が高まる中、一般のラオス人が購入できる価格で商品を提供することに努めています。

製塩事業について

グループ企業の Veunkham Salt 社の代表取締役を兼任しています。1996年設立の同社では、ビエンチャン郊

外で地下から天然の塩水をくみ上げ、塩を製造しています。年間4,000から5,000トンを生産しており、約95%は国内向けで、ラオス最大のシェアを確保しています。ミネラル分が多く含まれ、味の良い食塩として好評です。残りの5%は日本、台湾、タイへ輸出をしています。通常の食塩だけでなく、レモングラスやショウガなどハーブを添加した食塩も製造しています。2017年にはISO9001:2015を取得し、在タイの日系大手食品会社へ塩の提供を開始しました。当社の塩が使用された冷凍食品が日本に輸出されています。

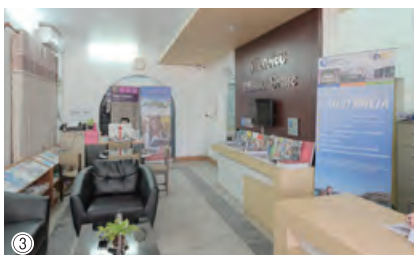
その他の事業について

医薬品輸入販売事業の Balamy Pharma や留学手配・海外生活サポートの Microtec Education Centre などがあります。留学については、シンガポール、オーストラリア、中国、

ベトナムの大学とネットワークを構築していますが、日本の大学とのネットワークはまだありません。是非とも構築したいと考えていますので、ご相談頂ければと思います。

今後の展開は？

主力事業である日用品の取り扱いアイテム数を更に充実させたいと考えています。特にバス・トイレタリーやオーラルケアなど、生活に欠かせない商品の拡充に注力する予定です。日本のブランドも積極的に取り扱っていきたくと考えています。また、製塩事業では、輸出を増やしていきたいと考えています。これには新たな技術導入なども必要になってきます。また、現在EUと共同でアルテミア（小型の甲殻類：ブラインシュリンプ）の養殖を開始したところですが、高タンパクで、飼料の原料となる魚粉としての輸出を計画しています。



①活気あるオフィス。②当社が扱う商品の一部。③留学手配・海外生活サポートの Microtec Education Centre。④製塩工場の様子。

DATA

所在地：145, Souphanouvong Avenue, Sithane Neua, Sikhottabong District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-30-5936111

設立年：2012

ホームページ：www.veunkhamsalt.com



ラオス最大の商業銀行。

BCEL (Banque Pour Le Commerce Extérieur Lao Public)

Mr. Phoukhong Chanthachack / GMD

【略歴】1964年、バクセー生まれ。ハンガリーで財務・経済学を学び、1988年に財務省入省。1989年にBCELの前身であった国営外為銀行に入行。融資部、支店長などを経て2005年に副頭取。2015年から頭取。「誠実」、「前進」、「顧客重視」を信念とする。

金融・保険

BCEL について

BCEL（ラオス外国商業銀行）はラオス中央銀行の中で外国銀行と取引可能な唯一の特殊支店として、1975年に設立されました。その後、1989年の市場経済導入に伴い国営商業銀行として新たに開行。2010年にはラオス証券市場初の事例としてEDL発電会社とともに上場しています。現在はラオス政府70%、戦略的パートナー10%、国内投資家10%、外国人投資家10%の持ち株構成となっています。ビエンチャン市内の本店の他、ラオス全国に19支店と80の出張所を展開、90万以上の口座を預かっています。預金資産は約35億ドル。近年多くの外国銀行がラオスに支店を開行していますが、当行のシェアは預金で40%、融資で28%とラオス最大の商業銀行の座を維持しています。

金融サービスは？

当行はサービスの近代化、金融商品の多様化を進めています。貯金・融資・送金サービスの他、プリペイド・デビット・クレジットカードなどのカードサービス、近年ではモバイルバンキングなどの電子送金サービスも充実してきました。融資事業ではホールセール（法人向け）、リテール（個人向け）共に対応しており、特にホールセールでは大企業だけでなく中小企業向け金融サービスに力を入れています。カード事業では中

国の銀聯カードの他、VISAカードやJCBカードも発行しており、近くマスターカードも導入する予定です。また、ラオス国営航空の提携カードなど、今後はカードのバラエティも増やしていく計画です。ラオスではまだまだ現金主義が残っていますが、今後はキャッシュレス決済が進むと考えており、全国にネットワークを有する当行はEコマースの普及に大きな役割を担うと確信しています。また、リスク管理においては、ISO（国際標準化機構）やIFIs（国際金融機関）をはじめとした国際基準の導入を積極的に進めています。

海外展開は？

現在のところ、海外への進出は考えておらず、むしろ外国の銀行と提携関係を強化することでネットワークの充実を図りたい考えです。一方で、隣国であり関係の深いタイには、現地銀行との調整業務を行う駐在員事務所を置く計画があります。日本との関係では、2012年にみずほ銀行と業務協力協定を調印し、日本との金融取引や日系企業向けのサービスを充実させています。また、2017年には韓国のKEBハナ銀行と、送金・貿

易金融分野の業務提携のためのMOUを締結しています。

関連企業について

当行はラオ・ベトナム銀行（LVB）に35%、ラオ・フランス銀行（BFL）に46%、ラオ・中国銀行（LCB）に49%を出資しています。また、保険会社（Lao Viet Insurance）や証券会社（BCEL KT）へも出資を行っており、ラオス国内で最大の金融グループを形成しています。

日本企業への期待は？

近年、南部のサワンナケートやバクセーをはじめとした経済特区への日系企業進出が増えています。日本企業の眼がラオスに向き始めていることは、当行にとっても非常に歓迎すべきことです。BCELでは全国に支店を展開していますので、日系企業へも充実したサービスが提供できると確信しています。また、日本にはEコマースシステムやフィンテックなどの進んだ金融システム・技術も多いと理解しています。良い技術があれば積極的に導入していきたいと思っています。



①ビエンチャン市内のBCEL本店ビル。②本店の様子。

DATA

所在地： No 1, Pangkham Rd., Chanthabouly District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-213200

設立年： 1989

ホームページ： www.bcel.com.la



独自の視点で多彩なビジネスを展開。

Century21 Real Pro Co., Ltd.

Ms. Daraphong Gnouttitham / MD

【略歴】1988年生まれ、ビエンチャン出身。2009年ラオス国立大学経済経営学部卒。在学中にラオス国営テレビのフランス語キャスター、仏系設計会社アシスタントも勤める。2010年仏・モンペリエ第2大学、第3大学大学院留学（人材育成およびITシステム修士）。帰国後は貿易会社に就職。2012年から多くの事業を立ち上げる。父は国会議員のボンサナー・ユティタム氏。

不動産

コンサルティング

教育・学習支援

その他サービス

御社の事業内容は？

当社はタイのセンチュリー 21 からフランチャイズ権を取得し、不動産仲介業を展開しています。2016年の設立から間もありませんが、既に1,000件以上の不動産データベースを構築しており、ラオスでのマスターフランチャイズを取得するために交渉中です。ラオスの不動産仲介業は古い体質の会社が多く、利便性やサービスといった視点に欠けていました。当社では、顧客重視で国際水準のサービスを売りにしています。国際機関などから問い合わせが多く、不動産オーナーからも高い評価を得ています。今後は総合的なプロパティ・マネジメント事業者として、セキュリティ、メンテナンス、メイド派遣などの付随サービスも開始する予定です。

他にも多くの事業を？

様々な分野で事業を展開しています。ESDSコンサルティング社では、事業評価や法人向け研修を提供しています。事業評価では世界銀行やアジア開発銀行など、専門性の高いプロジェクトの可能性調査を実施しています。また、法人向け研修ではピアラオやラオテレコムといった大企業だけでなく、中小企業からの依頼も多く頂いています。講師はラオス人だけでなく、タイやシンガポールからも招聘しています。また、英語学校の English House では、ケンブ

リッジ式カリキュラムを採用し、一般学生だけでなく、法人向け出張講座も実施しています。現在、ビエンチャン市内に2校運営しており、20名の英語講師を採用しています。講座のクオリティを保ちながら、比較的安価な料金設定です。また、政府職員や僧侶には無料で講座を開放しています。

ゴミ回収事業にも？

2016年に一般廃棄物収集事業会社の WastePro を設立しました。夫が代表を務めており、私は CFO として経営に携わっています。現在、ゴミ収集車6台とコンテナタンク車15台を保有しており、ビエンチャン都内3郡でサービスを提供しています。5つ星ホテルや大型ショッピングモールといった民間だけでなく、自治体や地域コミュニティとの契約も進めています。

今後の事業展開は？

センチュリー 21 では、ホテルやアパート、オフィスビル等への不動産管理サービスを強化しつつ、独自の不動産開発も検討しています。不動産開発は失敗例も見受けられることから、慎重に事業を進める予定です。English House は職業訓練学校へ発展させることを視野に入れています。ラオスでは、料理、システムエンジニア、グラフィックデザインなどの人材需要が高く、広い人材育成が求められています。WastePro では契約世帯にポリバケツの提供を開始します。美観や住環境を損ねることなく、ゴミ収集の質を高める狙いです。また、設立当初からリサイクル事業や再生エネルギー事業への展開を視野に入れています。現在展開している全ての事業は、日本のサービスや技術との親和性が高く、是非タイアップしたいと考えています。



① Century21 のオフィス。② 英語教室の English House。③ 一般廃棄物収集事業の Waste Pro。④ 法人向け研修の様子。

DATA

所在地： Sisangvone Road, Ban Naxay, Xaysettha District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-30-5970000

設立年： 2016

ホームページ： <http://century21realpro.com>



ラオスと日本をつなぐ母。

Chinda Silk & Cotton Crafts

Ms. Chinda Phommasthit / President

【略歴】1950年生まれ、パクセー出身。1966年、タイ東部の看護学校へ留学。卒業後は国立マホソット病院産婦人科で助産師・指導教官として28年間勤務。退職後の1998年、シルクコットン製品製造の現社を設立。日本企業との合弁も多く、旅行代理店、和装小物工場、刺繍工場を設立。ラオスハンディクラフト協会相談役（元会頭）、ラオス商工会議所相談役、都商工会議所相談役。

製造

その他サービス

御社の事業内容は？

当社はラオスの伝統工芸である織物工房からスタートし、旅行代理店や和装小物工場、刺繍工場など、様々な事業を展開しています。織物工房のチンダーシルク&コットンは、私の故郷であるチャムパサック県の女性の生活向上を目的として、1998年に4台の織機を導入して開始しました。草木染など伝統的な手法を用いたシルク織物を製造しており、現在23名の職人を抱えています。国内向けが主流で、金糸を豪華にあしらった巻きスカート（シン）や肩掛け（パービアン）など、結婚式用の伝統衣装が人気です。私自身は2010年から2013年にラオスハンディクラフト協会の会頭を務めました。現在は相談役としてハンディクラフト業界全体の活性化に尽力しています。

他の事業については？

2005年に「ジャンピング・ラオ・ツアー」という旅行代理店を設立しました。日本企業と提携し、日本からの観光客や在ラオスの日系機関や企業の方にご利用いただいています。観光客よりもビジネス用のリピーターが多いのが特徴です。航空券、ホテル、レンタカー、ガイドの手配が可能です。また、2012年には京都の和装小物総合メーカーとの合弁で、南部パクセーに和装小物の工場を操業させました。更に、2014年にはカ

ナダ企業との合弁で、北部ルアンパバーンで刺繍工場をスタートしています。パクセーではラオスの伝統技術で手織物を製造したり、日本の技術を導入して和装用の帯紐や髪飾りなども製造しています。ルアンパバーンでは少数民族のモン族やカム族を刺繍職人として雇用しています。いずれの工場の製品も、日本市場をターゲットとしたものです。また、ファミリービジネスとして、ラオス南部で小規模水力発電所の開発を行っています。先日もホアイサモンダムが完成しました。更に、化粧品や化学製品の輸入販売、不動産開発なども行っています。

今後の計画は？

伝統産業では引き続き職人の育成に努めていきます。今後はラオス各地にある織の文化を絶やさず、更なる発展のため養蚕事業を開始したい

と考えています。このため現在、南部チャムパサック県で養蚕を検討しているところです。タイの養蚕業界や中国の大学との技術提携も進めていますが、同時に日本には多くの技術や知見があると思いますので、協力関係の構築を期待しています。

日本企業への期待は？

私自身、国立病院の助産師・指導教官として長く医療に関わってきたこともあり、日本企業には医療分野への進出を期待しています。特に産婦人科はラオスの医療のためにも、社会的発展のためにも求められている分野です。産婦人科病院の設立には大きな投資は必要ありませんが、医師と助産師の人材育成が最も重要です。この点については助産師時代のネットワークが広くありますので、是非とも相談していただければと思います。



①織物工房。②旅行代理店事務所。③南部パクセーの和装小物工場。④パクセーでの綿糸製造。

DATA

所在地： Ban Saphanethong kang, No.255, Phonethan Road, P.O.Box.796, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-451156

設立年： 1998

ホームページ： www.cdps-varisa.com



飲料から発電まで幅広い事業展開。

D.S.K Group

Mr. Hansomlak Philavan / Director

【略歴】1986年生まれ、バクセー出身。2013年Lao American Collageで企業経営学(学士)。2015年Rattana Business Administration Collageで企業経営学(修士)。学生時代にはインターナショナルスクールで教員補助やDSK Groupで臨時職員として勤務し、2015年に正社員となる。現在はルアンパバーンで事業総責任者として活躍。グループ創設者のSayasing Sanakeo氏は岳父にあたる。

建設

製造

電気・ガス・水道

卸売・小売

不動産

御社の事業内容は？

当社は1999年に私の岳父によりルアンパバーンで設立されました。当初は建設業を中心に展開していましたが、現在はホテル、マーケット運営、飲料製造、ダム開発へと事業を多角化し、グループ企業として300名の従業員を抱えています。建設セクターでは一般建設のみならず、中圧送電線の建設も得意としています。また、「Freshy」ブランドでミカンやパイナップル、タマリンドジュースといったフルーツジュースの製造も行っています。ミカンは100ヘクタールの自社農園で栽培しています。ルアンパバーンはミカンの産地として国内で有名ですが、ローカル市場では海外の濃縮果汁をベースにしたオレンジジュースが多く、新鮮で美味しいジュースの生産は参入余地があると見て投資を決意したものです。パイナップルやタマリンドは農家からの買い付けで原料を確保しています。製造機械設備は当初、日本やドイツ製などを検討しましたが、最終的には低価格でメンテナンスが安心な隣国タイの機械を導入しています。

飲料事業はいかがですか？

2005年に「Mineral」ブランドでミネラルウォーターと氷の製造を行っています。ルアンパバーン郊外のプーブン山を水源とし、ミネラル分が豊富

な飲料水や氷はルアンパバーン県を中心に8割のシェアを獲得しています。飲料水は日5万リットル、氷は日5トンの生産能力です。ルアンパバーン市内には高級ホテルが多いため、提供する飲料水には厳しい監査が求められます。当社は定期的に品質試験を実施し、高い信頼を得ています。他社に比べて高い価格設定にもかかわらず、販売が伸びていることも品質の裏付けと言えるでしょう。2016年にはアセアンビジネス特別賞を受賞しています。また、「Freshy」ブランドでミカンやパイナップル、タマリンドジュースといったフルーツジュースの製造も行っています。ミカンは100ヘクタールの自社農園で栽培しています。ルアンパバーンはミカンの産地として国内で有名ですが、ローカル市場では海外の濃縮果汁をベースにしたオレンジジュースが多く、新鮮で美味しいジュースの生産は参入余地があると見て投資を決意したものです。パイナップルやタマリンドは農家からの買い付けで原料を確保しています。製造機械設備は当初、日本やドイツ製などを検討しましたが、最終的には低価格でメンテナンスが安心な隣国タイの機械を導入しています。

水力発電事業について

現在、サイソムブン県ロンチェンで水力発電所の建設を行っています。ナムグム川の支流にあたるナムパー川を利用した、発電量21MWの中規模ダムです。当社の100%出資で、2018年中の商業発電の開始を予定しています。完成後は当グループの大きな収益源になると期待しています。

今後の計画は？

今後は新たな事業に参入するのではなく、現在展開している事業の質を高めることを第一に考えています。マーケット事業については、施設のリノベーションを図っていく必要があると考えています。飲料事業については、品質維持にプライオリティを置きながら、ラオス北部5県へ販売網の拡大を図ります。また、2021年には中国・ラオス鉄道が完成することから、中国への輸出も視野に入れています。また、当社はこれまで基本的に独資で事業展開をしてきましたが、様々な事業を展開する中で、日本企業との協業の機会があれば、積極的に話を進めたいと考えています。



①サイソムブン県で開発中の水力発電所の模型。②ミネラルウォーターやフルーツジュース。

DATA

所在地：252/Souphanouvong Road, Ban Nakham, Sykhottabong District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-21-217164

設立年：1999

ホームページ：https://www.dskgroup.co



ラオスをインドシナの電力供給地へ。

EDL-Generation Public Company

Dr. Bounsalong Southidara / CFO

【略歴】1958年生まれ、カムアン県出身。旧東独イルメナウ工科大学で電気工学博士号取得。帰国後、ラオス電力公社（EDL）入社。送電線やダム開発に携わる。2010年EDLからの発電部門の分離とラオス証券取引所上場を主導。現EDL-GEN社を設立し主に財務を担当する。タイ証券取引所のパーツ・ドル建て社債発行の成功に貢献。多くの発電事業の取締役も務める。モットーはアーリーバード。

電気・ガス・水道

御社の事業内容は？

当社は2010年にラオス電力公社（EDL）の発電部門を分離して設立されたラオス初の上場企業です。株式の25%を公開し、残りはEDLが保有しています。クリーンエネルギーである水力発電を中心に発電した電力をEDLに売電しています。IPP（独立系発電事業者）を含む2016年の発電容量は1,131MWとなり、1万2,600GWhを発電、売上は5.5兆キープ（約6.7億ドル）に達しました。当社が保有する発電所は、水力発電ではナムグム1ダム（155MW）、ナムリックダム（60MW）、セーセット1ダム（45MW）等があります。また、IPP事業として外国企業との合弁でトゥンヒンブングダム（300MW）、ナムグム2ダム（154MW）等へ出資しています。その他にもエネルギーのベストミックスの観点から、2017年2月にラオス初となる、3MWの太陽光発電所を稼働させています。2014年にはISO9001:2008品質マネジメントシステム（QMS）を取得しています。

昔から電力事業を？

1985年から旧東独のイルメナウ工科大学で学び、ラオスへ戻ってからは電気学校で教鞭をとっていました。1994年に同大学に再留学し、電気工学の博士号を取得。帰国後にEDLに入社して以来、電力畑一筋です。EDLでは送電線やダム開発事業に携

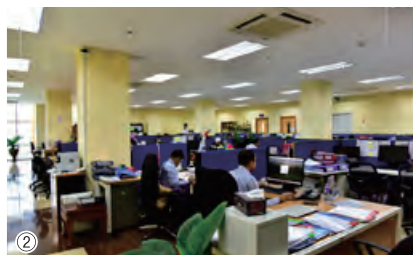
わり、現社に移ってからは主にファイナンスの分野で貢献してきました。

ファイナンスへの取り組みは？

ラオスの発電事業の担い手として、莫大な資金を調達するために増資と債務のバランスを取りつつ進めています。2010年末には、ラオス初の上場企業としてIPOを実施し、翌年のラオス証券取引所開所とともに、当社株式の25%にあたる2億1,700万株（1株4,300キープ）の取引を開始しました。その後、2012年、2015年と相次いで増資し、全発行株式を8.6億株から16.7億株と倍増させています。また、2014年にはタイ証券取引所において、CLVM諸国としては初となる65億パーツのパーツ建て社債、2016年には3億ドル超のドル建て社債発行を成功させています。当初は否定的だったタイ政府当局も、丹念に必要な説くことで、承認に繋が

日本企業への期待は？

2020年までに当社の発電容量を2,400MWにするべく、引き続き電源開発を積極的に進めていきます。日本企業とは、IPPで協力関係を築きたいと考えています。もちろん、タービン等の機械・設備へのニーズは言うに及びません。また、ラオスには今後も水力発電所が数多く開発されていきますので、ダムの保守管理請負事業を拡大する計画です。これにも様々な機材が必要となりますので、日本の先進的な技術に期待しています。インドシナ地域の電力需要は、今後益々増加すると期待されています。水力を中心としたラオスのクリーンな発電事業は、競争力がある魅力的なビジネスです。この分野で日本企業との協力関係を築いていきたいと考えています。



① EDLと共同の本社ビル。②社内の様子。③日本の技術で1971年に完成したナムグム1ダム。④2011年1月11日ラオス証券取引所での初売り。

DATA

所在地： Lao-Thai Friendship Road, P.O. Box 2392, Thongkang Village, Sisattanak District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-316140

設立年： 2010

ホームページ： www.edlgen.com.la



マイクロファイナンスの先駆者。

Ekphatthana Microfinance Institution (EMI)

Mr. Somphone Sisenglath / Director

【略歴】1970年生まれ、サイニャブリ県出身。1994年ラオス国立大学文学部英語学科卒。1998年タイのアジア工科大学でMBA修得。帰国後、国連資本開発基金、世銀、アジア開発銀行等でマイクロファイナンスのコンサルタント・トレーナー。2000年マイクロファイナンスセンターを設立。ラオスマイクロファイナンス協会相談役。職員育成に熱心でアチャーン（先生）と呼ばれる。

金融・保険

御社の事業内容は？

当社はラオス初のマイクロファイナンス預金動員機関です。資本金は10万ドル。2006年に私を含む10名のラオス人が共同で設立しました。ビエンチャン市内の本店の他、ビエンチャン県とサイニャブリ県で12支店を展開しており、120名の常勤スタッフを抱えています。農家から中所得層をターゲット顧客と捉えており、現在のところ預金は9万口座、融資は8,000口座となっています。融資の内訳は個人向けが6割、グループ向けが4割で、融資額平均は約900万キープ（約12万円）です。融資を実行するには基本的には担保が必要となりますが、500万キープ（約6万6,000円）以下のグループ融資では、無担保で貸し付けを行っています。また、ラオス初の子供向け貯蓄をはじめ、生命保険付帯融資や個人障害保険付帯の定期貯金も開始しています。

設立の経緯は？

元々、私自身は国連やアジア開発銀行のマイクロファイナンス事業に参画しており、2000年に同事業の研修を行うマイクロファイナンスセンターを設立しました。現在は金融関連アプリケーションなど情報通信技術をラオス国内140カ所のマイクロファイナンス機関へ提供しています。そして2006年には、マイクロファイナンス機関の設立を果たしました。

子供向け貯蓄とは？

「スマート・キッズ」という学童を対象としたサービスで、2011年からCSR活動の一環として開始しました。若い世代に貯蓄という概念を根付かせることを目的としています。また、単に貯金を集めるだけではなく、当社職員を学校へ派遣し、貯蓄の意味や計画、お金の使い方など、お金に関するリテラシー向上も目的としています。子供たちには金融機関の職員を体験学習できる機会も提供しています。これまで60校で4万口座が開設されました。子供たちの中には、お菓子を我慢して貯金するといった、消費行動の変化も出てきています。

今後の計画は？

2018年中に金融機関の消費者保護基準「Smart Certification」を取得します。新たな技術の導入としては、

Facebookのメッセージ機能を利用したChatbotをスタートさせます。これで顧客からの質問に自動応答できるようになります。また、メキシコで開発された、スマートフォンの顧客管理分析アプリの導入も近く開始します。煩雑なペーパーワークの削減や、効率的な顧客対応の実現に繋がると期待しています。ルアンパバーン、シェンクワン、ボケオ等のラオス北部にもサービス網の拡大を図りますが、物理的な店舗数よりも技術革新で代替していく計画です。ラオスでE-Walletの開発も進んでおり、今後は実店舗よりもシステムの構築に注力します。これにより職員が直接管理していた村レベルの融資についても、管轄エージェントがタブレットのシステムで管理してもらうことも可能になるでしょう。迅速で顧客重視の小規模融資を、テクノロジーを積極的導入することで、より円滑に進めていきます。



① ビエンチャン市内の EMI 本店。② コーポレートカラーのグリーンで統一された窓口。③ 「スマート・キッズ」の様子。④ 「スマート・キッズ」による職員体験の様子。



ラオスにスポーツ文化を定着させる。

Events for Good

Ms. Vanpheng Southichak / MD

【略歴】1974年生まれ、ビエンチャン出身。1994年バーバサック職業訓練学校卒（会計）。1998年まで旅行代理店勤務。1998年「東南アジア青年の船」にラオス第1期生として参加。帰国後、国連開発計画（UNDP）、メコン川委員会、世銀等に勤務。2001年豪スウィンバーン工科大学（人材管理）に留学。2011年から子供用品、ランジェリー、スポーツ用品店をオープン。

その他サービス

御社の事業内容は？

当社はマラソンやサッカー等スポーツ大会の企画運営を行っています。スポーツ選手の育成だけでなく、スポーツを通じたチャリティや地域貢献を目的としています。2016年に主催した「ビエンチャン・インターナショナル・ハーフマラソン」では、約1,200名の参加者を得て大成功を収めました。また、「COPA U-16 サッカー大会」では、コカコーラのスポンサーを受け、134チームが参加する大きな大会となりました。この他にも、約2,200人が参加した自閉症チャリティランイベント「グローラン」、約1,000人が参加した12kmの「ビエンチャン・クラシック・マラソン」などを次々と主催し、ラオスのスポーツイベントの流れを作っています。当社が主催する全ての大会は、ラオス陸上競技連盟やサッカー連盟等と連携し、政府による認可のもとで実施しています。また、NGO「フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー」が主催し、世界遺産都市ルアンパバーンを走るチャリティ・ハーフマラソンの運営も委託されています。

設立の経緯は？

私自身、ラオスのランニング・クラブの草分け的存在の「Team We Run」に所属するランナーです。タイやカンボジアのマラソン大会に参加する中、ラオスにも同じようなイベ

ントがあったらという思いから、友人4名と共に2016年に設立しました。その前年にはネパール大地震に対するチャリティーランとして、7キロのマラソンイベントを開催。2億キープ（約270万円）の寄付を実行することができました。このイベントの成功が、事業化に繋がりました。

ラオス人の意識に変化は？

ここ数年でラオス人の健康への意識は、若い世代を中心に急速に高まっています。これはイベント参加人数にも反映されており、2017年の「ビエンチャン・ハーフ・マラソン」は前年から800人増の2,000人に増加しました。2018年は3,000人を見込んでいます。2017年大会は48カ国から参加者がありましたが、7割はラオス人で20代から30代が中心です。また、初年大会では多くのラオス人から、「マラソンに参加するのにお金を払うのか？」という問い合わせが多く寄せられましたが、今やそのような質問はほとんど無くなりました。

今後の計画は？

引き続き、スポーツイベントを企

画運営していきます。2018年はサッカー「COPA U-16」を約1年間掛けて開催します。また、3回目となる「ビエンチャン・ハーフ・マラソン」を開催しますが、ラオス人選手の育成支援として、県代表やナショナルチーム12名を招待する予定です。更に、7月にはラオス初となる21kmのトレイルラン、年末にはラオス初となるフルマラソンも企画しています。また、トライアスロン（オリンピックディスタンス）も検討中です。現在、ラオスでは自転車を趣味とする人が増えていますので、バイクレースの実現も検討しています。これらの新たな競技イベントは、距離も長く、医療サポートなど密な準備が必要です。

日本への期待は？

多くの日本人ランナーに、是非ラオスのマラソン大会に出場してもらいたいと思います。観光スポットを取り入れたコースも工夫しています。また、日本には運営経験の蓄積も多いと思います。タイム自動測定システムは、安価で質の高いシステムを導入したいと考えています。もちろんスポンサーも募集しています。



① 2017年3月に行われたビエンチャン国際ハーフマラソン。② マラソンの授賞式の様子。





観光業から様々な事業へ拡大。

Exo Travel Laos Co., Ltd.

Ms. Duangmala Phommavong / MD

【略歴】1974年生まれ、ビエンチャン出身。パーバサック職業訓練学校で会計を習得。1999年ラオス国立大学文学部卒（フランス語）。ルアンパバーンのメコンクルーズ船や観光公社に勤務。2001年 Apple Tree との合併で現社設立。その後、ホテル、食品輸入、観光クルーズ、本・玩具販売にも進出。太平洋アジア観光協会ラオス支部会頭、元 EU 商工会議所副会頭、元ラオス青年事業家協会副会頭。

その他サービス

不動産

卸売・小売

御社の事業内容は？

当社はベトナムの Apple Tree 社との合併で、2001年に設立された観光ツアー会社です。Apple Tree 社傘下の EXO Travel (旧 EXOTISSIMO) は、当時既にベトナムやカンボジアで事業を展開していましたが、観光セクターで提携先を探していた私との目的が一致したことから、パートナー関係を開始させました。私自身の出資は35%で、残りは外資となっています。設立当初はスタッフ5名、年間300名の外国人観光客の受け入れからスタートしました。現在はビエンチャン、ルアンパバーン、パクセーの3都市に支店を置き、53名のスタッフのもと、年間9,000人のツアー客を受け入れています。現在、EXO Travel は日本を含む10か国で事業を展開しています。

他にも合併事業を？

Apple Tree 社との合併事業としては、少数民族カム族の村に「カム・エコ・ロッジ」、ルアンパバーン市内に4星ホテル「Villa Maly」や「Plasol Banc」を運営するホテル事業を展開しています。また、パクウー洞窟のサンセットクルーズ「Nava Mekong」や、チーズやワイン等の欧州食品の輸入を手掛ける「Annan Fine Food」、設計・建設コンサルタントの「ArcheType」も Apple Tree 社との合併事業として運営しています。また私個人の事業

としては、カンボジア企業との合併で本や玩具を販売する「Monument Books & Toys」を3店舗展開しています。

観光市場の可能性は？

当社はインバウンドの観光ツアーが中心で、割合は EU から50%、オーストラリア30%、アメリカ15%となります。多国籍で展開する EXOブランドとして、サービスの向上に取り組んでおり、特に EXO Touch という他のツアーには無いようなルートの開発に努めています。例えば、地域の人々の暮らしを垣間見るようなシティーツアーの提供です。近年、ラオスの観光業界は競争の激化にさらされています。特にタイやベトナムといった周辺国との競合、ホテル予約サイトの台頭が背景にあります。一方で当社は質の高いツアーサービスを提供することで一線を画していま

す。当社ではスタッフの研修はもちろん、契約ガイドやドライバーへの指導も継続的に実施しています。また、専用端末によるガイドなど、テクノロジーの導入も進めています。

日本への期待は？

日本人からの観光客を増やしていきたいと思います。しかし、日本人の受け入れには、十分な準備が必要だと考えていますので、提携先となる日本企業からの指導が必要です。また、貿易会社として Douangmala Trading を設立したところで、タイの提携先を倉庫機能として利用することで、在庫を持たずに小回りの利く輸入配送を実現する計画です。更に、現在、2G 環境下でのネット利用を可能とする、スタートアップシステム事業を開始しています。このような事業においても日本企業との提携を期待しています。



① ツアー事務所では体操の時間を取り入れている。② Monument Toys の玩具売り場。③ サンセットクルーズ Nava Mekong。④ ルアンパバーンにある Villa Maly。

DATA

所在地：15Kaysone Road, Ban Phan Sa Ad, Saysettha District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-21-454640

設立年：2001

ホームページ：www.exotravel.com



国内随一のスポーツコンプレックス。

GoodLife Sports Complex

Ms. Phonethip Siharaj / CEO

【略歴】1989年生まれ、ビエンチャン出身。ビエンチャン高校卒業後、2006年ラオス国立大学入学。2011年マレーシアのマラヤ大学（ITマネージメント学士）。帰国後は2013年までビエンチャン・インターナショナル・スクールで助手を務める傍ら、ビエンチャンカレッジ夜間英語クラス助手も兼任。2014年現施設の営業開始。ファミリービジネスとして大規模精米所（Viengsay）も経営。

その他サービス

御社の事業内容は？

当社は200万ドルを投資し、2014年に開業した総合スポーツ・コンプレックスです。約2万5,000平米の敷地に、フットサルコート4面（64x40m、50x35m各2面）、2階建フィットネス施設、屋内バドミントンコート8面、25メートルの屋外プールを備えています。また、スチームサウナとフィンランドサウナ、ペタングコート、レストラン、スポーツ用品店も完備しています。営業時間は9時～22時です。フィットネスの年会費は200万キープ（約2.7万円）、プール・サウナも同額です。両施設を利用する場合は300万キープ（約4万円）としています。ビジターとして、一回の利用も可能です。フットサルコートの利用料は1コート1時間で40万キープ（約5,400円）です。トーナメント式のサッカー大会も開催しています。

顧客層は？

フィットネスは年会費をやや高めに設定していることもあり、年齢層は高めです。施設ではサラダや野菜ジュースも販売していますが、健康意識が高い客層に人気の商品となっています。フットサルの利用者は少年から中年まで幅広く、サッカー人気が高いラオスを反映していると思います。多くのフットサルチームが当施設を利用しており、コートは常

に予約で一杯です。フットサルで汗を流した後は、施設内で食事という流れも良く見受けられます。サウナやレストランなど、設備が充実しているため、比較的高い年齢層の利用が多いことも特徴です。スポーツ用品店では、フットサルのチームウェアを新調されるチームが多く、サッカーウェアが売れ筋です。プールは屋外のため夏季の利用が多く、気温が下がる11月から2月の利用は減ります。また、企業のレクリエーション活動として、当施設を利用した運動会を開催することも増えています。

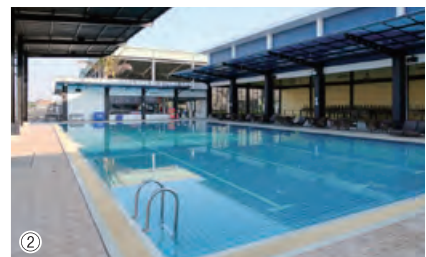
スポーツ教室の開催も？

フィットネスではエアロビクスのレッスンを開催しています。また、8歳から12歳向けのサッカーアカデミーも開催しています。これは日本の青年海外協力隊員が、ボランティアで教えてくれています。スイミン

グでは子供向け水泳教室を、夏休みなどの季節限定で行っています。今後も様々なスポーツ教室を増やしていきたいと考えていますが、課題はコーチの育成です。今のところ、タイ人コーチやタイのスポーツ学校の学生にも協力してもらい、ラオス人の育成を行っています。まだまだ人材は不足しており、育成にはもう少し時間が必要です。

日本への期待は？

ラオスでも健康意識の高まりから、定期的にスポーツに取り組む人々が増えています。スポーツを媒介とした事業は、今後も発展していくと考えています。そのため、更なるサービス向上が急務ですので、日本企業とのタイアップは歓迎します。条件が揃えば、日本のスポーツ企業のフランチャイズ展開にも協力できると思います。



①全4面のフットサルコートは屋根付き。②25mの屋外プール。③外光が差し込む開放的なフィットネス。④バドミントンコートは全8面。

DATA

所在地：Luangprabang Road, Phosy Village, Sikhottabong District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-20-29292906

設立年：2014

ホームページ：<https://www.facebook.com/goodlifelaos/>



クラフト業界の若き精鋭。

Her Works

Ms. Douangmany Heuangkamsene / Founder

【略歴】1988年生まれ、ビエンチャン出身。寮都中華学校、ウドムビエンチャン高校卒。2010年～11年バンコクの宝飾クラフト学院 GIA でジュエリーデザインを学ぶ。卒業後は両親の宝石事業を手伝い、2016年ハンディクラフトの Her Works を創業。2017年ラオスハンディクラフト展示会で商工大臣賞を受賞。

製造

卸売・小売

御社の事業内容は？

当社はラオスの伝統的なテキスタイルを用いたバックや衣服、靴、アクセサリなど、様々な製品を製造販売しています。現在、ビエンチャンに2店舗を展開しており、顧客の大半は海外からの旅行者です。売れ筋商品は10万キープ前後のバッグです。当社の製品はラオスの少数民族が生活の中で生み出してきたオリジナリティ溢れる柄やデザインを活かし、現代のファッションにマッチした製品作りを行っているのが特徴です。これまでにヤオ族、ランテン族、モン族、アカ族、カム族、ルー族、黒タイ族、赤タイ族などのシリーズを製作してきました。素材となる生地はラオス各地の少数民族の村へ委託し、縫製は主に自社で行っています。宝飾を学んだ経験を活かし、ボタンやファスナー、仕上げなどにも細心の注意を払っています。「Her Works」というブランド名は、私たちのクラフト製品の生産を多くの女性が担っていることを表しています。

事業のきっかけは？

両親は「ブンテムジュエリー」というダイヤモンドや金の加工販売ビジネスしており、幼少の頃から近くで見てきた私自身も、いつか自分自身のビジネスをしたいと考えていました。また、多様な民族文化にも興味があり、日本やネパール、ベトナム

といった様々な国々を訪問してきました。訪問先で各地の文化にふれることで、ラオスでも伝統的な素材を活かした土産物を作ってみようと考えたことがきっかけです。最初の店舗は市内中心部の政府庁舎の一角に、コンテナショップをオープンさせました。元々使用されずに駐車場となっていたスペースで、局長に直接交渉したところ、運良く借りることができました。

今後の展開は？

最近、世界遺産都市ルアンパバーンに新店舗をオープンしました。16平米程度の小さな店舗ですが、多くの旅行者が集まる街ですのでチャレンジする価値のあるプロジェクトです。また、ビエンチャンやルアンパバーンの空港にもショップを出したいと考えています。空港店はプレミアム製品を揃え、市中の既存店とは

違う商品を販売する計画です。当社の全ての店舗はPOSシステムを導入していますので、今後更に店舗が増えたとしても在庫管理は万全です。海外展開も計画しており、まずは似通った民俗文化を持つタイを想定しています。その先には日本への輸出や出店という夢も持っています。

日本企業へのメッセージを

大きなプロジェクトとして、「民族技術開発センター」をビエンチャン近郊に設立する計画があります。少数民族が生産する布生地が不足しており、各民族の技術継承と生産の拠点と位置付けています。生活スタイルや布を展示する博物館として観光客の誘致も可能です。3年以内に実現したいと考えていますが、これには多くの資金が必要です。もし日本の皆様から出資や技術支援いただけるのであればうれしく思います。



①首都中心部にある本店。②政府庁舎の一角を利用したコンテナショップ。③少数民族の柄を取り入れた多様なアイテム。④ラオスの藍染生地を使用したパンプス。

DATA

所在地：Nokeokoummane Rd, Mixay Village, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-20-58883388

設立年：2016

ホームページ：www.herworks.la



ロジスティックのトータル企業。 Hung Huang (Lao) Logistics Co., Ltd Dr. Khatthachanh Chanthaboury / President

【略歴】1971年生まれ、ピエンチャン出身。1994年国立医科大学卒（内科）。卒業後ファミリービジネスである建設会社を手伝う傍ら、ラオ・マレーシア大学でビジネスマネジメントを学ぶ。2004年現社の前身となる Hung Huang Service を設立。2007年現社設立。実兄は Dr. キッケオ・チャンタブリー計画投資省副大臣。

運輸・郵便

御社の事業内容は？

当社はロジスティックの総合企業で、国際陸路輸送、国内陸路輸送、国際空路輸送、空港貨物ターミナルの運営および通関業務を行っています。ピエンチャン市内に本社を置き、ワットアイ国際空港ならびにタイのノンカイ県に拠点を構えています。現在の従業員はおよそ100名です。家業の建設会社を手伝う中で建設資材の輸出入に携わり、輸送業務の重要性に気づいたことがこの事業を始めるきっかけとなりました。2004年に当社の前身となる Hung Huang Service を設立し通関業務を中心に行っていましたが、2007年に資本金50万ドルで現在の会社を設立しました。売上比率は国内陸送40%、空港貨物ターミナル運営35%、通関業を含む国際陸送15%、空輸10%です。

取扱い貨物の特徴は？

当社は他社には真似できない困難なサービスの提供を追求しています。例えば陸送では特殊車両を用いた輸送を得意としており、水力発電所や空港建設などの大規模建設事業向けに、特殊重機、大型機械、サイロなどの超大型貨物を、タイからラオスの建設現場へ輸送する業務を担っています。ナムダム2ダムやナムトゥンダムなど、山岳地帯でアクセス困難な建設現場へ、安全に貨物を届けることで定評を得ています。また、国

内陸送ではセメントミキサートラック30台やコンクリートポンプ車4台を新たに購入しました。ラオス国内のセメント工場で生産された生コンを建設現場へと配送するものですが、GPSも備え安全に確実に顧客へと配送するシステムを整えています。

空港貨物について

2012年から航空貨物のGSA（総販売代理店）業務を開始しました。現在はバンコク・エアウェイズ、エアアジア、ベトナム航空のGSAを務めています。日本企業関連では、縫製工場向けの生地を中国からクアラルンプール経由で輸入したり、ラオス産のショウガやレモンガラス等の野菜類をベトナム経由で日本へ輸出したりする業務があります。また、2015年には輸出入貨物の蔵置・荷役などを行う空港貨物ターミナルの運営権をワットアイ国際空港運営会社である

Lao-Japan Airport Terminal Services (LJATS) から取得しました。現在、ラオス航空以外の全ての空港貨物を取り扱っています。同空港では乗り入れ便数が年々増加しており、既に倉庫の拡張をしています。2018年には空港ターミナルの拡張工事が完了しフライトが増加することから、貨物量も更に増大する見込みです。

今後の展開は？

ロジスティック総合企業として更なる発展を目指し、倉庫業の拡大を進めていく考えです。今後はラオス国内で日用品など、あらゆる品物の総合物流センターの需要が高まると考えています。冷蔵・冷凍や危険物など、多様なニーズに対応することも求められるでしょう。また、政府や金融機関などの重要書類の安全な保管先となる倉庫も近く整備する予定です。



①ピエンチャン本社。②セメントミキサー車。③ワットアイ国際空港の空港貨物ターミナル。④空港貨物の取り扱いの様子。

所在地： 2nd-3rd Floor HHL Tower, Unit 04, Souphanouvong Rd, Ban Khounta-tha, Sikhottabong District, Vientiane, Lao PDR
電話： +856-21-263028
設立年： 2007
ホームページ： <http://hhl-laos.com/>



人材開発のワンストップセンター。 iJobs Company Ltd. Mr. Bounthieng Lattanavong / Director

【略歴】1974年生まれ、ビエンチャン出身。パーバサック職業訓練学校卒（経営管理学）。外資系保険会社、電力会社等で人材マネジメント担当。在職中にラオス国立大学で経済経営学学士、センサワンカレッジで経営管理学修士を取得。2013年に独立して現社設立。他にラオス風焼鳥店（5店舗）、碎石工場、オーガニック野菜栽培事業等も展開。

その他サービス

コンサルティング

御社の事業内容は？

当社は企業向け人材開発・人材管理の会社です。ビエンチャン本社の他、VITA PARK 経済特区、サワンナケート県、サイニャブuri県に支社を設けています。私自身が外資系企業の人材マネジメントを長く担当してきた経験を活かし、2名のラオス人パートナーとともに2013年に設立しました。従業員数は約35名で、経験豊富な常勤トレーナーが4名います。人材の斡旋、研修トレーニング、海外送り出し、人材管理コンサルティング等、人材に関するワンストップサービスを提供しています。また、外国人向けのビザ・労働許可取得代行も行っています。

サービスの概要は？

人材斡旋では発電所、製造業、小売業など様々な顧客企業の要求に応じた人材を厳しい選考の上で斡旋しています。人材発掘には当社のウェブサイトやSNSでの募集はもちろん、全国に構築したネットワークを活用しています。また、当社で研修を実施した上で、企業へ送り出すことも可能です。斡旋人材は3カ月の保証があり、就労後のモニタリングサポートも実施しています。人材の海外送り出しは2015年から開始し、月に1,000名程をタイへ送り出しています。タイ向け送り出し機関としては、約20%のシェアがあります。ま

た、韓国向け外国人産業技術研修生のために、韓国語の研修も実施しています。更に、日本の国際研修協力機構（JITCO）の認可も受けたことで、2018年から日本へ技能実習生を送り出すことも可能となりました。人材管理コンサルでは様々なサービスを提供していますが、例えば工場向けの人材管理パッケージが挙げられます。当社で開発した出退勤管理システムとセットで従業員の給与計算を代行し、労務管理のアウトソーシングを受けています。

人材の研修内容は？

当社の研修トレーニングは1日1,000名の受け入れが可能で、職種に応じて専門トレーナーが指導を行います。製造業の事例を挙げると、求められる勤務態度の養成、安全に対する配慮、チームとして働くための基礎知識、外国人との接し方、収入

に対する考え方などを、約1週間かけて学びます。

今後の展開と日本への期待は？

日本への技能実習生送り出しは、介護や農業分野での準備を進めているところです。このため、日本語ができるスタッフを3名雇用し、東京にはラオス人のサポート要員を確保しました。また、実習生には日本語能力試験N3合格を目指し、日本語講師を大学から派遣してもらう予定です。受け入れを希望される日本企業がいれば、声を掛けていただければと思います。更に、パートナーとして、研修カリキュラムの作成やトレーナーとして協力していただける企業や個人も歓迎します。また、当社には常時4,000人を超える人材が登録されていますが、人材の登録や管理を行うアプリの開発パートナーも探しています。



①ビエンチャン市内の本社ビル。②本社受付では人材の登録も行っている。
③④人材研修の様子。

DATA

所在地： Khamhoung Village, Xaythany District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-30-2002000

設立年： 2013

ホームページ： <http://ijobs.la>



インフルエンサーとして高い影響力。 Indee Record / Samart Event Organizer Mr. Anouluck Pathammavong / MD

【略歴】1978年生まれ、ビエンチャン出身。公務員の父と医者之母を持つ。1996年ラオス国立大学(経済経営学部)入学。学生時代からCD販売店を経営。2002年、音楽レーベルのIndee Recordを設立。2011年、イベントオーガナイザーのSamart Event Organizerを設立。他に焼肉レストラン(NikuO)、海鮮食材販売等も経営。モットーは誠実と向上。

その他サービス

御社の事業内容は？

Indee Recordは学生時代に始めたCDショップから発展し、2002年に大学の同級生と共に設立した若者向け音楽の専門レーベルです。ポップやロックが中心で、「Overdance」や「Cells」などのヒット曲を契機に、アルーナやサムといった多くの人気アーティストが誕生しました。フィジカル(CD/DVD)の販売だけでなく、通信会社やiTunesを介したデジタル楽曲の販売もしています。また、音響・照明・LED設備は最新の機材を揃えているため、各種イベントへの機材レンタル事業も増加しています。

イベント会社に関しては？

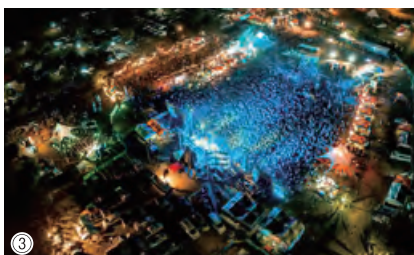
音楽レーベルとしての活動する中、2005年頃からイベント運営も依頼されることが増えました。2006年にはユニリーバ社の「Miss Luxコンテスト」をオーガナイズするなど、企画立案から運営まで依頼されるケースが増えてきました。このため、2011年にラオスのパートナー企業との合弁でSamart Event Organizerを設立しました。成長著しいビジネスで、毎年10%以上の売上増加を記録しています。主なクライアントとしては、飲料(ビアラオ)、通信会社(UnitelやBeeline)、自動車メーカー等があり、大晦日に開催している「ビアラオ・ミュージックゾーン・カウントダウン」は毎年恒例のイベント

です。国連関連イベントなど、公的機関向けのオーガナイズも任されており、2016年には当時ビエンチャンを訪問した米国のオバマ前大統領とビエンチャン市民との交流イベントも当社の実績です。日本関連でのイベントも多く、2015年のジャパンフェスティバルでは「福岡アジアコレクション(FACo)」のファッションショーもオーガナイズしました。また、代々木で開催されているラオスフェスティバルには、Indeeに所属する歌手と共に毎年参加しています。

日本への期待は？

イベント事業のSmartでは、自動車メーカーだけでなく、日用品や化粧品など様々な日本のグローバルブランドの販促イベントも取り込んでいくことを目指したいと思います。また、音響・照明・撮影機器では、これまでも日本の製品を使用してい

ますが、今後も積極的に新しい機材の導入に努めます。イベント関連の課題として、ラオスではグラフィックデザインなどクリエイティブな技術者が不足しています。日本人の中にラオスでその能力を試してみたい人がいれば、是非とも声を掛けてください。音楽部門のIndeeでは、ラオス人歌手と日本人歌手とのコラボレーションを行ったり、両国で開催されるコンサートに共演する取り組みを進めたいと考えています。これまでも、日本のジブシークイーンとの共演を実現させていますが、このような活動を更に発展させたいと考えています。また、当社では「バンビエン・フェス」という野外音楽祭を主催しています。2017年は12月に開催し、2日間の観客数は延べ1万人以上にのぼりました。ラオスでアピールするには絶好のイベントですので、日本人アーティストにも是非参加してほしいと思います。



①アヌラック氏の活動はSNSでも多めに注目されている。②優秀なデザインスタッフが業務を支えている。③④大成功を収めた「バンビエン・フェス」の様子。

所在地: K&C Building (Level 4), Sisavath Village, Group 12 Alley 15, Chanthaboury District, Vientiane, Lao PDR
電話: +856-21-254114 設立年: 2002 ホームページ: www.facebook.com/Samarteventorganizer/



ラオス初の民間製薬会社。

KPN Pharma Sole Co., Ltd.

Ms. Kongphat Thavitham / President

【略歴】1960年生まれ、ピエンチャン出身。革命家の両親に伴われ、幼少期を北東部のシェンクワンやサムヌアで過ごす。1969年から6年間ベトナム・タインホア省で学ぶ。革命後の1975年からサムヌアで会計を学びトップで卒業。1978年都財務局職員、1980年都木材伐採公社経理。1985年に独立し食品・日用品の輸入事業。1992年製薬工場を設立。2010年タピオカ澱粉工場を設立。

製造

農林・水産・畜産

御社の事業内容は？

当社は製薬事業とタピオカ澱粉製造事業を柱としています。製薬事業では抗生剤や風邪薬などの新薬だけでなく、桑茶などの伝統薬も製造しています。2006年には新工場が完成し、新薬では錠剤、シロップ、軟膏など約60品目をラオス全国に供給しています。原料はインドや中国から輸入しています。2009年には品質マネジメントシステム（ISO9001:2008）とGMP（適正製造基準）を取得し、年間売上は約130万ドルです。

製薬事業のきっかけは？

1990年初頭の国内医薬品市場は国営製薬会社の独占状態でした。薬は常に不足がちで、価格も非常に高いものでした。私自身に医学や薬学の知識があったわけではありませんが、安価で質の高い医薬品を供給することはビジネスとしてだけでなく、社会貢献にも繋がると考えたことがきっかけです。当社の工場はラオス初の民間製薬工場です。2000年にはベトナムのCODUPHA社から49%の出資を受けましたが、経営方針の違いから合弁を解消し、2006年からは独資で操業しています。

タピオカ澱粉工場は？

ラオス南部のチャムパサック県ウトゥムボン郡に工場を設立し、2010

年から本格生産を開始しました。タピオカ澱粉の生産能力は1日90トン（年間約2万トン）、ISO9001:2008も取得しています。生産したタピオカ澱粉は国内販売のみならず、中国、台湾、ベトナム、パキスタン、タイ、イタリアなどへ輸出しており、2018年は350万ドルの売上を見込んでいます。原料となるキャッサバは200ヘクタールの自社農場だけでなく、総面積1,400ヘクタールの周辺農家からも買い付けています。本事業を開始した当時、ラオス南部ではキャッサバの栽培はほとんど行われていませんでしたが、今では国の重要な輸出品となっています。当社が進めた栽培普及活動が実を結び、地域農家の収入機会にも貢献できたことは素晴らしい成果です。

の持続的な発展を第一目標と定めています。タピオカ澱粉の生産能力は、日産90トンから150トンへ拡張することを計画しています。国内海外ともにタピオカ澱粉の需要は堅調ですが、ラオス国内における資金調達は利息が高いため、資金力や技術力のある日本企業からの出資は大歓迎です。また、新たに有機タピオカ澱粉の生産も検討していますので、原料としてご興味がある企業があれば、ご相談頂ければと思います。製薬事業では新商品としてタマリンドジュースの生産を計画しています。胃腸に優しい健康飲料として国内でも注目されており、健康志向が高まりつつあるラオスで、需要が見込まれます。また、新規事業として不動産開発をスタートさせました。ピエンチャン郊外の20ヘクタールの土地に、コンドミニアムや一戸建てを建設する総合開発となります。同事業への出資も歓迎します。

日本企業へメッセージを

製薬、タピオカ澱粉製造の両事業



① KPN ファーマ工場外観。②工場での箱詰め作業の様子。③主な医薬製品。④タピオカ澱粉工場。

DATA

所在地：12 Ban Xiangda, Dongkhamxang road, Saysettha District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-20-55511240

設立年：1992

ホームページ：<http://www.kpn-pharma.com>



ラオスから世界へ。

Lao Airlines

Mr. Sengpraseuth Mathouchanh / Vice President

【略歴】1956年生まれ、ビエンチャン出身。1976年から6年間ブルガリアの大学で畜産学を専攻。帰国後、在ラオス・ブルガリア大使館に勤務。1991年からラオス国営航空がブルガリアのバルカン航空の機体をチャーターしたことを契機にラオス国営航空入社。2008年から現職。2016-17年にはアセアン航空輸送WGの議長を務めた。

運輸・郵便

御社の事業内容は？

当社はラオス政府が100%出資する国営航空会社です。1976年にロイヤル・エア・ラオとラオ・エアラインズという二つの航空会社が合併することで誕生しました。かつては外資を受け入れていましたが、2003年以降はラオス政府100%の出資となっています。ナショナルフラッグキャリアとしてラオス国内便及び、中国、韓国、タイ、ベトナム等への国際便を運航しており、国内線は6路線、国際線は14路線を就航しています。現在、保有する機材は、ATR72-500（4機）、ATR72-600（3機）、エアバスA320s（4機）です。2016年2月には国際航空運送協会（IATA）が運営する国際的な運航安全監査プログラムIOSAの認証を取得し、同年7月にはIATAへ正式加盟を果たしています。

顧客サービスは？

2014年からはチャムパムアンラオという名称で当社独自のマイレージサービスを開始しています。また、2017年にはスマホで簡単にチケット購入や座席指定が可能になる公式モバイルアプリをリリースしています。

今後の計画は？

現在、外国の有力なパートナー企業を募っており数社と交渉を重ねています。乗客貨物輸送サービスは国

にとっても重要なインフラですので、パートナーを受け入れることで資金力やサービスの強化を図りブランドを高めていく計画です。外資の導入を契機に、大型機体の購入も検討していきたいです。また、機内サービス向上のため、機内販売の導入や機内エンターテインメントの強化も必要ですが、近距離のフライトが中心ですので、費用対効果を高めることが課題となっています。

日本への直行便は？

現在交渉中の成田・ビエンチャン間の定期直行便ですが、当社が保有するA320sでは途中給油を行う中継地が必要になることが大きな課題です。日本国内の地方空港を利用する案と共に、韓国を経由地とする方法を含め再検討しています。いずれにせよ、この問題は将来大型機体を導入すれば解決すると見えています。日

本との直行便が実現すれば、現在約5万人の日本人渡航者が増えるだけでなく、貨物輸送の増加も期待できます。ラオスからは農産物の輸出、日本からは電化製品や自動車部品等の輸入がこれまで以上に活発になると思います。

日本への期待は？

当社では、現在8名のパイロット候補生を留学させていますが、当社が目指すサービス拡充にはまだまだ充分とは言えません。パイロットや地上職員の人材育成の面で、日本企業からの投資や支援、業務提携などに期待しています。また、当社では新たにIATAの請求精算プラン（Billing and Settlement Plan:BSP）を導入しました。日本でもラオス国営航空の航空券の購入がこれまで以上に容易になっています。日本からの旅行客の増加を期待しています。



①ワットタイ国際空港に隣接した本社ビル。②同社の保有するATR72。③同社の保有するAirBus320。④空港内のチェックインカウンター。

DATA

所在地： Wattay International Airport, Sikhottabong District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-513129

設立年： 1989

ホームページ： www.laoairlines.com



芸術的な映像作品を生み出す。

Lao Art Media Co., Ltd.

Mr. Anousone Sirisackda / President

【略歴】1958年生まれ、サラワン出身。幼少期にサワンナケートへ移住しフランス学校（リセ）で学ぶ。1979年新政府の映画局職員となる。1983年から旧ソ連に国費留学し映画学修士取得。帰国後、情報文化省映像アーカイブセンターへ配属。1993年に退官し、在外ラオス人向けの旅行代理店を設立。1999年から音楽CDなどの製作を開始し、2000年現社設立。他にIT会社や貿易会社を運営。

情報通信

その他サービス

御社の事業内容は？

当社は映画・テレビ番組・音楽の制作会社で、2000年にエンジニアで映像プロデューサーでもあるドゥアンマニー・ソーリバン氏と共に設立しました。社名のアートが示す通り、芸術性の高い映像や音楽を生み出すことにこだわっています。設立当初は音楽CDやミュージックビデオに数多く携わり、2006年から映画制作にも進出しました。また、関連会社では、eSports（対戦ビデオゲーム競技）や関連商品を扱うIT事業、旅行代理店、健康食品販売などを展開しています。

どのような映画作品を？

2006年の「ボトヒアン・シヴィット（生活の知恵）」が最初の作品で、ユニセフの依頼で制作しました。2008年にはタイのサクチャイ・デーナン監督との共同制作で、「サバイディ・ルアンパバーン」を製作。広く世間に認められたラオス映画となりました。2012年にはラオス人の母とベトナム人の父を持ち、ロサンゼルスで育ったマティ・ドゥ監督を起用して、ホラー映画「チャントラー」を製作しています。そして、2016年には、エストニアとの共同で「ノンハック（愛しい従妹）」を発表。翌年のアカデミー賞では、ラオス映画として初めて外国語映画賞にノミネートされるという快挙を成し遂げました。また、ブルネイとの共同制作「リ

ナ2」をはじめ、2018年には「ボーミーワンチャー（常に一緒に）」の撮影を開始します。今後も良質な映画を精力的に発表していく予定です。

今後の計画は？

当社は映像制作会社ですので、今後も芸術性の高い作品づくりに注力していきます。ラオス国内のみならず、タイやカンボジアなど海外でも評価される映画を発表していきたいと思えます。また、ラオス人にもっと映画を楽しんでもらう機会を増やすため、「ラオス・フィルム・ウィーク（Laos Film Week）」という映像イベントを主催することも計画しています。同時に映像制作分野の人材育成にも力を注ぎたいと考えています。例えば、ラオス全国にコミュニティセンターを設立し、大画面モニターと通信ネットワークを利用して、遠隔教育の授業を展開する案を考えて

います。このプロジェクトは映画のみならず様々な職業訓練施設としても利用が可能でしょうし、ミニ映画館として地域の文化促進にも役立つと考えています。更に、メディア事業として、ラジオ局の開設にも興味があります。

日本への期待は？

2016年と2017年に東京国際映画祭にバイヤーとして出席しています。当社の撮影機材は日本製のカメラを使用していますし、今後も日本企業には技術面のサポートを期待しています。また、コミュニティセンターの設備、特に大型モニターなど必要となる機材は多くあります。更に、eSportsでは、日本企業とのタイアップを期待しています。ラオス国内で4万人のゲームコミュニティがありますので、日本のゲームをラオスで展開することに貢献できるでしょう。



①本社ビル。②本社内、1階は旅行代理店も兼ねている。③④映画の撮影風景。

DATA

所在地：159 Nongsanokham, Sikhottabong District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-20-55518188

設立年：2000

ホームページ：<https://www.facebook.com/LaoArtMedia/>



フランチャイズを積極的に拡大。

Lao Beverage Sole Co., Ltd.

Mr. Vipheth Sihachakr / Executive Director

【略歴】1966年生まれ、ビエンチャン出身。1985～91年ソビエト連邦(ウクライナ)カコフに留学(材料工学修士)。帰国後、家業の輸出入会社(Societe Commerciale Lao)を継ぐ。2008年現社設立。同社の他にも様々な事業に出資している。ラオス商工会議所理事(3期目)、ラオス・サッカー連盟会長(2期目)、ラオスオリンピック協会理事(2期目)。

生活・飲食・娯楽

卸売・小売

金融・保険

御社の事業内容は？

当社は外食事業や小売事業を中心に展開する100%ラオス資本の企業です。2008年にタイのカフェ「トゥルー・コーヒー」とマスターフランチャイズ契約を結び、ビエンチャン中心部に outlet したのが最初の取り組みとなりました。現在は市内に4店舗を展開しています。また、2016年には「Watnak Quartier」というコミュニティモール(商業施設)をオープンし、タイで有名なタイスキのチェーン「MK レストラン」と、日本料理の「鉄板焼宮崎」の営業を開始しました。同じ年には、敷地1万平米、約300席の「ハードロックカフェ・ビエンチャン」もオープンしています。飲食以外の事業では、2017年末に100円ショップ「ダイソー」をオープンしました。ラオスでは1品1万8,000キープ(約230円)で販売しており、約2,000品目を扱っています。当社が進めるいずれの事業も、正式なマスターフランチャイズ契約を締結しています。また、私自身の個人出資として、外資やラオス企業との合弁で、ピザの「ピザ・カンパニー」、アイスクリームの「スヴェンセンズ」をそれぞれ5店舗、ソフトクリームの「デイリー・クイーン」を3店舗、フライドチキンの「テキサス・チキン」を2店舗展開しています。自動車販売にも携わっており、フォードの正規ディーラー「Lao Ford City」へも出資しています。

なぜフランチャイズを？

ラオス経済は高成長を維持し、個人所得が上昇しています。より良いサービスを適切な価格で提供するには、既に海外で成功を取めているビジネスモデルのフランチャイズが最適と判断しました。ラオスの消費者にも受け入れられ、レストラン事業は当初予測の2倍の来客を維持しています。サービス水準の維持には人材育成が重要な鍵となりますが、毎月フランチャイザーから派遣される検査でも高い評価を受けています。比較的高い給与を支払い、モチベーションを与えることも重要です。

保険会社について

2018年2月に、保険会社ラオ・ピワット保険会社をタイとの合弁で設立し、会長に就任しました。自動車保険や火災保険などからスタートし、

損害保険の商品を充実させていく予定です。ラオス人の所得が上昇することで、保険需要の拡大を見越したものです。

今後の計画は？

まずは現在保有するブランドの拡大を目指します。「MK レストラン」と「ダイソー」は、2018年中に新たに2店舗増やす予定です。また、「ダイソー」には10万点を超える豊富な商品がありますので、自社店舗だけでなく、様々な小売店舗への卸販売も進める計画です。シャンプーやキッチン用品、子供用品等は特に可能性が高いと考えています。また、CP明治の牛乳やヨーグルトなど、乳製品の輸入卸事業も開始しました。牛乳は月間2万リットルを輸入しています。コールドチェーンを整備し、輸入卸事業の幅も広げていきたいと考えています。



①各種店舗が入居する「Watnak Quartier」。②100円ショップのダイソーでは、約2,000アイテムを揃える。③シックで清潔な「鉄板焼宮崎」の店内。④ラオ・ピワット保険。

DATA

所在地: 111 Ban Mixay, Setthathirath Road, 3rd FLR, P.O.Box 1988, Vientiane, Lao PDR

電話: +856-21-255953

設立年: 2008



ビール国内シェア 97%。

Lao Brewery Co., Ltd.

Mr. Sounthone Phommachack /President

【略歴】1960年生まれ、シェンクワン県出身。ラオス革命後の1977から1979年にかけて算数の教師として山岳地域で教鞭をとる。1982年、ビエンチャンに移住し同社に入社。会計、マーケティング等の部署で優れた手腕を発揮し、1989年副社長にスピード昇進。2016年から現職。業務の傍らベトナムとシンガポールでMBAを取得。ラオス商工会議所主席相談役。

製造

御社の事業内容は？

当社は1973年設立の総合飲料メーカーです。「ビアラオ」ブランドを中心としたビール、「タイガーヘッド」ブランドの飲料水「ペプシ」を中心としたソフトドリンクの製造販売を行っています。ラオス国内のマーケットシェアは、ビール97%、飲料水65%、ソフトドリンク80%に達しています。設立当初の年300万リットルだったビールの生産能力は、現在3億5,000万リットルに飛躍的に増加しました。これは当社が手がけた「ラオスではラオスのビールを飲もう」というキャンペーンが奏功したと言えるでしょう。資本構成はデンマークのカルスバーグが51%、ラオス政府が29%、シンガポールの投資会社が20%の保有率となっています。

今後の計画は？

ビール事業では近年のニーズ多様化に応えるため、ビアラオ以外のブランドも展開しています。低価格帯の自社ブランド「ランサーン」をはじめ、デンマークの「カルスバーグ」や「ツボルグ」を生産しています。また、輸入ビールとして、フランスの「クローネンブルグ1664」を販売しています。今後はビアラオをコア製品としつつも、ポートフォリオの更なる拡充に努めたいと考えています。中でも日本ブランドのビールには注目しています。まずは輸入

からのスタートとなるでしょうが、将来的には当社の工場でライセンス生産も視野に入りたいと考えています。日本ブランドの場合、ビールだけでなくウイスキーや緑茶飲料などのソフトドリンクについても興味があります。新規事業としては、スナック類の取り扱いを検討しているところですが、当社はラオス全国への強力な配送ネットワークを構築しており、3日以内に国内のあらゆるエリアへ商品をお届けが可能です。これはコンシューマー製品事業としては大きな強みになると考えています。

個人的な事業も？

アクティブでクリエイティブな姿勢を維持するため、常に新しいアイデアを吸収するようにしています。私個人のビジネスとしては、ベトナムの代理店であるAuto Lao社、ホテル事業ではSeason Riverside Hotel、ジェ

ネレーターや変圧器を扱うSaythone Electric社、コンサルタント事業のSMP Consultant社などの会長を務めています。更に、幼稚園などの教育部門や廃棄物処理・バイオマス発電事業などにも興味を持っています。事業を通して社会貢献をすることが、私個人としての人生の目標です。

日本へのメッセージを

当社の主要設備はドイツ製が中心ですが、日本製設備の導入にも興味があります。これまでに、日本製の省エネシステムを導入しており、ビール工場としては世界で初めてクリーン開発メカニズム(CDM)を取得しました。また、配送トラックは日本製を積極的に導入し、日本の技術を用いたソーラールーフの設置も調査中です。このような環境配慮型、省エネ・省力型の日本の技術の導入も期待しています。



①ビエンチャン市内の本社ビル。②ビエンチャン市内にある同社のビール製造工場外観。③南部パクセー工場。④ビールや清涼飲料水など主要ブランド。

DATA

所在地： Km12 Thadeua Road, Hatsayfong District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-812001

設立年： 1973

ホームページ： www.beerlao.la



ラオス産牛乳で児童の栄養改善を。

Lao Dairy Farm

Ms. Sengmany Yathotou / CEO

【略歴】1989年生まれ、ピエンチャン出身。国立司法学院（法学学士）卒。1年間シンガポールでの英語留学の後、2016～2017年北京の対外経済貿易大学（国際貿易法修士）に留学。父は元農林省副大臣カムパート・スリンブーミー氏、母は現国会議長のパニー・ヤトトゥ女史。

農林・水産・畜産

製造

御社の事業内容は？

ラオ・デイリー・ファームでは酪農事業と乳製品加工を行っています。元々は私の父の趣味で、2012年にオーストラリアから16頭の乳牛を導入して始めたものですが、良質な牛乳が徐々に評判を呼び、2015年に本格的に事業化するに至りました。現在、首都ピエンチャン郊外で、125頭の乳牛を飼育しています。搾乳量は1日約450リットルで、生乳の他、低温殺菌牛乳、ヨーグルト、ヨーグルト飲料を生産しています。生乳は乳製品メーカーや洋菓子店が主な納入先です。低温殺菌牛乳やヨーグルトはミニマート等への卸販売だけでなく、家庭への宅配サービスも開始しています。鮮度が高く美味しいと評判になっています。また、ピエンチャン市内には「ラオ・ミルク・カフェ」という手作りスイーツ店を2店舗展開しています。

乳牛飼育の難しさは？

ラオスのように暑い気候の国では、乳牛飼育には細心の注意が必要です。現在はタイで育種された品種（ホルスタイン・フリーシアン）を導入しているため暑さには強いですが、それでも1日3回は水浴びや清掃が必要です。また、当ファームでは配合飼料は一切与えていません。ネピアグラスという栄養価の高い牧草を栽培しており、国産大豆、トウモロコシ、

ビール粕、稲わら、米ヌカなどと乳酸発酵させた独自の飼料を使用しています。周辺国で生産されている牛乳に比べて、安全で美味しいと好評を得ています。

加工製品について

加工製品は「Lao Milk（ラオス語でノム・ラオ）」というブランドで統一しています。摂氏4度で7日間保存可能な低温殺菌牛乳は、パストライザー（充填後殺菌）装置を導入しており、1日に1,000リットルの生産が可能です。ヨーグルトは当ファームで最も人気がある商品です。ラオスでも販売されているタイ製のヨーグルトは甘みが強いものが多いですが、ラオス人は糖分が少ないヨーグルトを好みますので、当社の製品も甘さ控えめにしています。ヨーグルト飲料はパッションフルーツ味が人気です。

今後の計画は？

現在、チェダーチーズなど3種のチーズ開発を進めています。ホテルやレストランがターゲットになりますが、お土産品や輸出商品としても販売する計画です。また、消費期限が半年になるロングライフミルク（UHT乳）も導入したいと考えています。これにより、ラオス全国へマーケットを拡大することが可能と考えています。ただし、新たな生産設備を導入するには大きなコストが掛かりますので、日本など技術や経験を有する企業との協力関係を歓迎します。また、当ファームではラオスの公立小学校へ牛乳の無料配布キャンペーンを開始しています。ラオスの子供たちの栄養改善を目的としたものです。この活動へのスポンサーを募集していますので、国際機関やNGO、多くの企業の方々からのサポートを期待しています。



①タイで育種されたホルスタイン・フリーシアン。②搾乳の様子。③飼料の原料となるネピアグラスの収穫。④小学校への牛乳の無料配布。

所在地： Naxaithongnuer Village, Naxaithong District, Vientiane, Lao PDR
 電話： +856-20-56699788
 設立年： 2012
 ホームページ： www.facebook.com/LaoDairyFarm



本来のラオスらしさを追求する。

Lao Derm Restaurant & Handicraft Ms. Vanpheng Sisoulit / Owner

【略歴】1979年生まれ、バクセー出身。幼少期から両親の織物販売事業を手伝い、商売のノウハウを身につける。16歳で自身でアパレル店をオープン。2006年、結婚を機にビエンチャンに移住。2009年、高級シルク製品販売のラオドゥーム・ハンディクラフトを立ち上げる。2013年には本格ラオス料理ラオドゥーム・レストランもオープン。

生活・飲食・娯楽

製造

卸売・小売

御社の事業内容は？

シルク製品のラオドゥーム・ハンディクラフトと本格ラオス料理のラオドゥーム・レストランを経営しています。ラオドゥーム (Lao Derm) とは「ラオス特有 (本来) の」という意味があり、ラオスの伝統的な素晴らしさを追求しています。ハンディクラフトは2009年に立上げ、ラオスの伝統技術と織柄を活かした高級シルク織物を扱っています。ラオスの巻きスカートである「シン」をはじめ、シャツやワンピースも販売しており、オーダーメイドにも対応しています。私自身デザインの教育を受けたわけではありませんが、両親の手伝いでシルク織物には幼少の頃から触れてきました。当社の商品は自らデザインや配色を考案し、約60名の職人が伝統的な製法で仕上げています。

レストランの特徴は？

「ラオドゥーム」の名前の通り、伝統的で上質な料理を提供するレストランです。2013年にオープンさせましたが、ラオスでも最上級となる本格的ラオス料理が楽しめる空間を作り上げました。ラオス全土の様々な伝統料理を提供する中で、特にこだわっているのが地方の素材を使用することです。例えば、サムヌア地方のラープ (ひき肉の和え物) という料理には、地元の山椒を用いています。また、チャムパサック地方のモックパー

(蒸し魚) には、地魚を使っており味には定評があります。顧客層としてはラオス人が7割、外国人観光客が3割といったところです。ゆったりとくつろいで頂くために、広めの店内に余裕を持ったテーブルの配置していることも特徴です。また、サービスの水準を維持していくためにも、今のところ観光ツアーは受け入れていません。スタッフは厨房に20名、給仕20名程で、ファミリーの一員として共にレストランを盛り立てられています。

新たな取り組みは？

世界遺産都市ルアンパバーンにはレストランの支店をオープンさせました。また、2014年にはラオス料理のケータリングサービスも始めています。少人数から5,000名規模のパーティまで対応可能です。2016年にラオスはアセアンサミットの議長国を

務めました。国際会議場のケータリングは当社が担当しました。

今後の展開と日本への期待は？

レストラン事業では、地方伝統の本格ラオス料理のレパートリーを増やしていきます。シェフ達も多くのアイデアを持っており、発展著しい南部バクセーにも支店をオープンさせたいと思っています。また現在、ラオス料理の加工食品開発も検討中です。海外居住のラオス人や外国人からも要望が多く、当社ブランドでのパッケージ化を研究中です。日本企業には加工食品の分野で秀でた技術を有している企業が多いと聞いていますので、共同開発などで連携を期待しています。また、日本にはアルコール飲料、和牛、海鮮物などで世界的評価が高いものが多く、これらを調達できれば面白いと考えています。



①「ラオドゥーム・レストラン」外観。②高級感あふれる広々とした店内。③制服を着用したケータリングスタッフは教育が行き届いている。④ハンディクラフトの店舗。

DATA

所在地: Vangthong Night Plaza, Thongkhankham Village, Chanthabouly District, Vientiane, Lao PDR

電話: +856-21-255283

設立年: 2009

ホームページ: www.laoderm.com



高品質な医療を普通のラオス人に。

Lao Medical Care Clinic (LMC Clinic) Dr. Soulivanh Pholsena / Medical Director

【略歴】1978年生まれ、ビエンチャン出身。ビエンチャン高校卒。ラオス国立大学留学準備コースを経て、豪ニューサウスウェールズ大学医学部卒。専門は心臓内科。2006年、保健省に入省し、国家保健計画・戦略の立案や大臣秘書を務める。2010年、日本の国立保健医療科学院に留学し、公衆衛生学修士取得。タイのアサンション大学医療経営学修士。2017年に保健省を退官し病院経営に専念。

医療・福祉

御社の事業内容は？

LMCクリニックは、内科、産婦人科、小児科、放射線科からなる民間医療クリニックです。2016年2月に医師4名で開業し、現在は医師12名、看護師50名が勤務しています。診療時間は8時から21時まで。超音波画像診断装置（エコー）、X線診断装置、血液分析装置を導入しており、各科に専門医が診察・治療に当たるため、迅速な対応が可能で、患者からの高い信頼を受けています。一日の患者数は150名から200名で、主に中所得者層を対象としています。現在は手術や入院には対応していません。産婦人科の妊婦さんも、出産は病院を紹介しており、当クリニックでは定期検診や産後ケアを行っています。

なぜクリニックを？

2006年にオーストラリア留学から帰国してからは保健省に勤務し、政策立案や2代に渡る大臣秘書を務めてきました。政府の中枢で国の保健政策に直接関わることは素晴らしい経験でしたが、高校生の時から医師を志し、いずれは社会のために自らの能力を発揮したいという夢があり、退官することを決意しました。約700万人のラオス国民の中でも、まずは普通の庶民へ高品質な医療サービスを提供することを目的に開業しました。このため、豪華な建物や最先端の設備は備えたプレミアム病院では

ありませんし、処方薬に対する医師のインセンティブも取っていません。そのため、受診料は良心的で、後に続く医療機関の良き見本となることを目指しています。

今後の計画は？

ビエンチャン首都圏で、医療コミュニティの構築を目指しています。総合病院としてビエンチャン・ホープ病院（Vientiane Hope Hospital）を建設し、その近郊にはLMCクリニックを複数展開していく計画です。2018年中の建設着工を目指しています。この総合病院は500万ドルの100%自己資金で建設を計画しており、病床数は100床、ICUを備えた近代的な病院となります。LMCクリニックが地域の一次医療を担い、より高度な医療が必要な患者には、ビエンチャン・ホープ病院で診療を受けてもらいます。

日本企業へのメッセージを

ビエンチャン・ホープ病院では、施設の一部を使用して在留外国人向けの医療サービスを展開することが可能と考えています。まずは、この部門への日本企業の参画を期待しています。また、日本で研修を受けたラオス人看護師の受け入れ先としても期待できるでしょう。もちろん、日本の高度専門医の派遣も考えられます。私の経営コンセプトと医療に対する理念に共感して頂ける日本企業の方々には、投資だけでなく総合的なパートナー関係の構築に期待しています。また、日本の医療機器メーカーには、是非ラオス国内に代理店を設立して頂きたいと思います。医療機器は売りっぱなしができない分野ですので、メンテナンスが可能な体制づくりに期待します。必要があれば、我々が代理店になることも考えています。



①明るく清潔な待合室。②看護師とのコミュニケーションを重視している。③産婦人科。④X線診断装置。

所在地： ASEAN Rd, Ban Thongthoum, Vientiane, Lao PDR
電話： +856-30-5041994
設立年： 2016
ホームページ： <https://facebook.com/laomedcare/>



家電・携帯電話で全国に販売網。

Lao Mobile Group Co., Ltd.

Mr. Montry Louangpaserth / President

【略歴】1978年生まれ、ビエンチャン出身。華人学校の寮都学校卒業後、1996年からマレーシアに留学しホテルマネージメントを学ぶ。帰国後はサイアム商業銀行に就職、テラーやアカウントを担当。副業として携帯電話の販売を始め、2001年に前身であるランサンフォンを設立。以後、家電やセキュリティ機器など販売アイテムを拡大している。

卸売・小売

御社の事業内容は？

事業内容について教えてください

当社は携帯電話や電化製品を中心に卸・小売を行っています。直営では4店舗がありビエンチャン都内に2店舗、サワンナケート県とチャムパサック県にそれぞれ1店舗を有しています。その他にも全国18県で206店舗との販売ネットワークを構築しています。2002年サムスンとの間でマスターディーラー契約を皮切りに、以来パナソニック（セキュリティ機器）、NEC（キーテレフォン）、LG（家電）、BOSCH（セキュリティ機器）、三菱（エアコン）等の正規代理店を担っています。当社はアフターケアセンターも設置しており故障やトラブルにも迅速に対応しています。

なぜ携帯電話に？

当社の前身であるランサンフォンを立ち上げた2000年頃、ラオスの携帯電話はまだ非常に高価なものでした。新たなビジネスとして大きなチャンスだと考え、シンガポールやカンボジア等から輸入し、ラオス国内で販売を開始したことが契機です。設立当初からひとつのブランドに特化せず、バラエティに富んだ多くのブランドを扱ったことが成功の要因だったと考えています。現在は家電やセキュリティ製品にも扱いを広げ、全10ブランド、約5,000品目を扱っています。

セキュリティ製品の需要は？

当社ではパナソニック等の監視防犯システム製品を扱っています。防犯意識が高まり、企業用・家庭用共に需要が増加しています。ネットワークカメラ、画像管理ソフト、ストレージなどのシステムの他にも、フェーススキャンや指紋認証、GPSトラッキングシステムなど、様々なセキュリティ製品を取り扱っています。

今後の展開は？

今後はオンライン販売が重要になると考えており、商品情報だけでなくクーポンを発行できる独自アプリの開発を行っています。在庫を持たず最小限のスタッフで運営する低コストなショーケースとして実店舗を用意し、フェイスブックなどのSMSを介して販売を行うシステムの構築も進めています。ラオスでは既に電

子通貨による支払いが進みつつあります。手数料やセキュリティに課題はありますが、オンライン販売を積極的に進めたいと考えています。また、近年ラオスではリース販売の需要が高まっています。当社も複数のリース会社と提携し、顧客の利便性を高めています。

日本企業への期待は？

まずは日本ブランドの携帯電話や家電、またGPS車両運行管理システムなど、日本製品の取り扱いを増やして行きたいと考えています。ラオス市場に興味がある日本企業があれば、是非とも当社にご相談ください。また、ラオスでは中古携帯電話の需要もありますので、日本から入手できればビジネスになると考えています。更に、電子決済システムは非常に重要ですので、日本の技術に大いに期待しています。



① Lao Mobile Group 本店。②店内には白物家電のショールームもある。③セキュリティ機器。④モバイル製品ショールームの受付。

DATA

所在地： Dongpalan Village, Sisattanak District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-254888

設立年： 2001

ホームページ： <https://www.laomobilegroup.com>



流通業界のパイオニア。

LDC IMPORT-EXPORT Co., Ltd.

Mr. Phosavang Chasane / CEO

【略歴】1970年生まれ、ビエンチャン出身。高校卒業後は旧ソ連へ留学する予定であったが、ソビエト崩壊により留学先を日本に変更。天理大学で2年間日本語を学んだ後、愛知学院大学で学士および修士（経営学）を取得。帰国後は民間企業に9年間勤務した後、2011年からスーパーやコンビニを展開する同社を設立、CEOに就任している。

卸売・小売

御社の事業内容は？

当社はスーパーマーケットやコンビニエンスストアを展開する流通企業です。スーパーはフランス企業との合弁で「U-Express」というブランド名で展開していましたが、現在は合弁を解消し、ブランド名も「U-Mart」に変更する予定です。コンビニは2012年から「Jiffy」というブランド名で展開しています。タイ石油公社（PTT）とフランチャイズ契約を結び、PTT ガソリンスタンド併設の店舗を中心に、路面店も展開しています。現在、ビエンチャンに17店舗、南部3店舗、北部のルアンパバーンに1店舗のネットワークとなっています。取扱い商品数は約6,000品目、従業員は全体で270名です。

なぜ流通業を？

流通業に興味を持ったのは、日本留学中のことです。当時、ダイエー創業者の中内功氏や、パナソニックの松下幸之助氏の著作を愛読しており、近い将来、ラオスにも必ずモダントレードが必要になる時代が来ると確信していました。いつかラオスで起業することを夢見て、スーパーの倉庫でアルバイトとして働き、現場の経験を積みました。

今後の展開は？

PTT ガソリンスタンドが新たな店

舗を続々とオープンさせる中、当社のコンビニ「Jiffy」も、これらに併設する形での出店を見込んでいます。また、小売業の外資規制が緩和されましたので、従来のフランチャイズ契約からPTTとの合弁へ移行させ、今後10年で200店舗の出店を目指しています。品揃えに関しては、自社生産やプライベートブランドも視野に入れていきます。また、カタログ販売への参入も見込んでいます。

御社の強みは？

流通事業者として自社倉庫と独自の配送網を保有していることです。また、日本のPOSシステムを導入しており、効率的な物流体制を整えています。ワインやチョコレートなど、温度管理が必要な商品にも対応しています。今後は地方の店舗数の増加に併せて、ディストリビューションセンターを設置していく予定です。

日本企業への期待は？

当社の持つ物流網を活かし、日本のコンビニエンスストアをラオスで展開したいと考えています。タイに進出している日系コンビニエンスストアの現地法人ではなく、直接日本の本社との契約を希望しています。また、扱い商品の約9割はタイ製ですが、日本の即席麺や雑貨なども販売しています。今後は日本の食品をはじめ、アルコール飲料の取扱いも考えています。更に、「100円ショップ」のような、安価である程度の品質を持つ商品の取扱いにも興味があります。但し、仕入れコストを低く抑えるため、日本の本社と直接取引をしたいと考えています。日本企業からの商品の売り込みや取扱いの相談を歓迎します。また、商業施設開発にも興味がありますので、投資を考えている方がいらっしゃれば、是非ご相談ください。



①自社工場と配送トラック。②倉庫内はバーコードで商品管理がされている。③コンビニエンスストアのJiffy。④生鮮食品や惣菜も充実している。

DATA

所在地： Route 18, Ban Tanmixay, Xaythany District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-771725

設立年： 2011



ラオスと日本の架け橋を使命に。

寮都産業株式会社

Mr. Satoshi Muramatsu / Director

【略歴】1979年生まれ、東京都出身。ラオス人父と日本人母のもと3人兄弟の次男として生まれる。高校卒業後に渡米。2005年カリフォルニア州立大学卒（コンピューターサイエンス）。2006年から台湾師範大学へ留学（中国学科修了）。2007年から父が運営する寮都産業に勤務。仕事の傍ら2015年に法政大学大学院（イノベーション・マネジメント）にてMBA取得。同年、中小企業診断士を取得。

卸売・小売

コンサルティング

御社の事業内容は？

当社は1979年に私の父が日本で設立した貿易会社です。当初は重機車輛や建設機械を日本からラオスへ輸出していましたが、現在は東南アジア食材の輸入販売が中心です。取扱商品の9割はタイ産品で、ナムプラー（魚醤）やココナツミルク等を日本全国に卸しています。2002年にはラオスのビール「ビアラオ」の正規代理店となり、年間7,000ケースを輸入しています。また、無農薬・有機栽培のラオス産レモングラスや黒ショウガ等も扱っています。父と共に私を含む三兄弟が、力を合わせて会社運営に携わっています。

中小企業診断士の活動も？

35歳で日本の中小企業診断士とMBAを取得しました。会社の発展だけでなく、「ラオスと日本の架け橋になる」ことが、私の人生に課せられたミッションだと考えたからです。診断士のネットワークを活用し、多くの人を巻き込むことで、一人ではなし得ないことでも可能になります。2017年12月には10名の診断士の仲間と共にラオス視察を実施しました。同年6月には、トンルン首相の訪日の折に行われたラオス投資セミナーにも、講師として発表の場を頂きました。日本とラオス両国が持つ強みを知ってもらうことで、無限大の可能性が拓けると考えています。また、

ビジネスのみならずボランティア活動や教育・スポーツ支援など、様々な活動にも広がっていきたいと考えています。

今後の計画は？

ラオスへの貢献と互いの発展を志す有志と共に、日本で「Lao-Japan Gateway」という組合を設立しました。両国の「ヒト・情報・機会」を繋ぐ、オープンな「コトづくり」の場やビジネスに欠かせないサービスを提供することを目的としています。既にビエンチャン市内にコワーキングスペース・シェアオフィスを開設しています。これを足がかりにして、市場調査や情報提供、ITソリューション、人材育成など、様々な取り組みを行いたいと考えています。ラオス産品の輸入では、衛生基準などの課題はありますが、天然塩に可能性を感じています。また、高齢化が

進む日本へ、ラオス人の人材派遣事業にも興味を持っています。ラオス人は介護という人と接する職種には向いています。そして、日本製品のラオス市場開拓に向けた、テストマーケティングにも一役担えるよう準備をしているところです。

日本企業へメッセージを

寮都産業で培った食品・農業・物流ノウハウ、中小企業診断士としての専門的知見とネットワーク、「Lao-Japan Gateway」によるラオスとの様々な繋がり。これらの3つのシナジー効果が私自身の強みだと思っています。単発のビジネスではなく、これらの取り組みの先に見えるビジョンと新たに創造するストーリーこそが、ラオスと日本の架け橋だと考えています。ラオスと日本を結ぶことに関して、何か相談事があればお気軽にお声掛け頂ければと思います。



①ビアラオの日本での正規輸入代理店を務める。②創業者の父（左から2番目）と3兄弟。③代々木公園で行われたラオスフェスティバルに出店。④中小企業診断士ミッションの様子。

DATA

所在地：Lieu Tou Building, 18-6 Higashiyama cho, Itabashi ku, Tokyo, Japan, 174-0073

電話：+81-3-3974-0719

設立年：1979

ホームページ：www.lieutou.co.jp



幅広いネットワークで業界を牽引。 MV International Co., Ltd. Ms. Adena Syrikoun Mahavong / President

【略歴】1964年生まれ、サワンナケート県出身。県内の中華学校で学び、1986年まで家業の貿易業を手伝う。ピエンチャン移住後、貴金属売買や国連向け備品調達事業を行う。1990年縫製工場、1995年広告マーケティング会社を設立。放送業界にも深く関わり、2004年にラオス国営第1テレビ局と合併で同社を設立。ラオス商工会議所主席相談役、ラオス報道協会理事。

情報通信

御社の事業内容は？

当社はコマーシャルを収益源とする無料テレビ放送局「MV ラオ」を運営しており、番組制作も独自に行っています。衛星とケーブルを介し、ラオス国内のみならず、世界22カ国で視聴可能なネットワークを構築しています。また、iOSやアンドロイド用の視聴アプリも開発しており、インターネット放送も提供しています。35名の正社員に加え、多くの契約社員が当社で働いています。

MV ラオの特徴は？

視聴者はラオス人が中心ですが、ラオス語を解する人々はカンボジアやタイ東北部をはじめ、アメリカ、カナダ、フランスにも暮らしており、3,000万人規模のマーケットがあると考えています。放送時間は24時間で、歌謡番組や子ども向け番組の他、ドラマや映画も放送しています。ドラマや映画は中国製のものが多いですが、ラオス語への吹き替えや字幕制作は当社で行っています。

事業参入のきっかけは？

1995年に設立したマーケティング会社が足がかりとなりました。この会社はシンガポールの企業と合併でイベント開催やブランディングを行っていましたが、事業を通して広告媒体としてのテレビ業界に魅力を

感じたことが、参入への強いインセンティブとなりました。

他にも事業を？

1990年からパートナーと共に、ヨーロッパ向けの縫製工場や自転車製造工場を経営しています。従業員は1,000名を超え、ここでの経験が間接的に現在のテレビ事業のマネジメントにも活かされています。

今後の展望は？

MV ラオはラオス語圏を中心としていますが、無料で視聴できるため広く様々な展開が期待されます。隣国タイには関連会社を設立していますし、多くの国や地域に幅広い放送網を築いています。これらのネットワークを介して、様々な人々にラオス発の情報を発信することが可能です。先日はキックボクシングの放送

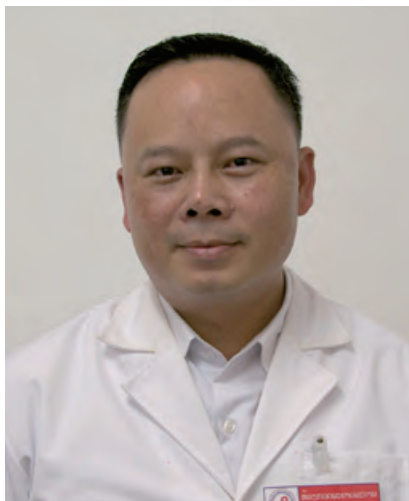
を行いました。非常に広い地域からの視聴がありました。アセアン経済共同体もスタートし、今後はラオスマーケットのみならずアセアンワイドな視点で事業を展開していく必要が有ると考えています。

日本への期待は？

まずは、テレビ番組など、日本からのコンテンツ提供に期待しています。特に求めているのは子ども向け番組で、ラオスではまだまだ不足している分野です。良質な教育番組への需要が高いことから、是非とも日本の協力や提携に期待しています。単なるコンテンツ提供や購入にとどまらず、日本とラオス共同による映画やドラマ制作も行っていきたいと思えます。また、取材、撮影、企画等、番組制作に関する様々な技術や経験も日本から学び、今後の番組制作に活かしていきたいと思っています。



①放送スタジオを備えた同社のオフィス。②チームワークを大切にするスタッフたち。③スタジオ風景。④ロケにも積極的に立ち会うアデナ氏。



クリニックの概要は？

当クリニックは簡易外科手術にも対応する一般開業医(GP)です。内科、健康診断、予防接種をはじめ、訪問診察も提供しています。内科では風邪などの軽微な疾患をはじめ、高血圧、高血糖などの基礎疾患(非感染症疾患)や急性疾患にも対応しています。4名の医師が勤務しており、県内のラオス人富裕層や外国人旅行者が主な患者層となっています。簡易外科手術では術後のケアも行っていますが、当院で対応できない場合には、県立病院やタイの大手病院を紹介しています。また、ルアンパバーンは世界遺産都市として多くの外国人観光客が訪問していますが、各ホテルと提携してホテルドクターとしても登録しています。もちろん、各種旅行保険などにも対応しています。更に、社会貢献活動として、ルアンパバーンで活躍するサッカーなどのスポーツ選手へ、無料診断・治療を開始しています。

なぜクリニックを？

私は2004年からルアンパバーン県立病院で、外科医として勤務してきました。ラオスでは県立病院の医師の多くが、副業でクリニックも経営していることが多く、私も2012年からルアンパバーン市内にクリニックを開業していました。しかし、数少ない外科医として、県立病院で年間

世界遺産都市で総合医療を。

Phakan's Clinic

Dr. Phansay Phakan / M.D.M.S

【略歴】1975年生まれ、ボンサリー出身。高校卒業後、中国政府の奨学金を得て広西医科大学へ9年間留学(外科学)。帰国後国立マホソット病院で2年間勤務。2004年からルアンパバーン県立病院へ勤務し名外科医として評判となる。2009年副院長に抜擢。2017年、医師公務員を辞し現クリニックを設立。妻は国民議会議員のヴィエンヴィライ・ディラバン(ルアンパバーン県女性同盟主席)。

医療・福祉

560件を超えるオペを担当する中、両方のバランスを保ちながら兼務するのは難しいと感じていました。また、県立病院内での役職が上がることで医療以外の業務が増え、現場との距離を感じるようになりました。そこで2017年、自身の患者のケアを優先させるため県立病院を辞し、当クリニックを設立することを決心しました。健康や医療に対するラオスの人々の要望が日々増加し、また外国人観光客が急増する中、求められる水準の医療を提供するための決断でした。

今後の計画は？

近代的な総合病院プロジェクトを構想しています。世界遺産都市ルアンパバーンには、多くの5星ホテルがありますが、比較的設備の整った総合病院は県立病院のみで、国際水準の医療を十分に提供できていないと言えません。当初は30床くらいか

ら開始し、内科、外科、産婦人科等を揃え、手術室や集中治療室、検査室を備えた基礎医療を提供する総合病院にしたいと考えています。医療人材が不足しているのは確かですが、退官した医師や新人医師を採用し、病院内で技術移転を進めていくことで、人材不足・経験不足を補う計画です。ただし、病院の設立には医療機器をはじめ、多くの投資が必要となります。少なくとも300万ドル程度でしょう。この分野で経験や強みがある日本の企業や投資家がいらっしゃいましたら、是非協力してほしいと思います。特にラオス人は日本に対する信頼が高いため、日本と共同で事業を進められれば成功すると確信しています。また、ルアンパバーンにはボランティアのレスキュー隊がありません。交通事故などの突発的な患者や金銭的な余裕の無い急患に、一時的に素早く対応するレスキュー隊を設立したいと考えています。



①開業して間もないクリニックは清潔感に溢れている。②同僚医師への指導も行っている。③分析機器も導入し、血液検査もクリニック内で行える。④薬局も備えている。



女性設計士の視点で多角経営。

Phasouk Group

Ms. Vidaly Chanthaphasouk / President

【略歴】1969年生まれ、サワンナケート県出身。高校卒業後、1991年までビエンチャンのエンジニアリング学校で学ぶ。1992年から設計コンサルのSK Consultantの設計士として10年勤務。2003年独立し、2名の設計士でSC Design & Constructionを設立。以後事業を拡大して現在に至る。2016年にはアセアン女性企業家賞を受賞。ラオス女性事業家協会副会頭。モットーは慎始敬終。

建設

製造

卸売・小売

不動産

御社の事業内容は？

当グループは設計・施工管理・建設を基幹事業とし、家具製造や不動産開発、各種貿易事業も展開しています。観光セクターの事業としてホテルも運営しています。現在、グループ全体で約100名の従業員を抱えています。建設事業では実に多くのプロジェクトを請け負ってきました。ルアンパバーンのLuangxay Residenceといった高級ホテルやDao Coffee Luangprabangといったレストラン、オフィスビルやアパート、ピラハウスなどを得意としています。また、日系企業の工場の宿泊施設やキャンティーンでも実績があります。

製造業ののでは？

家具製造(SC Furniture)では、施工した建物の内装まで請け負う中で、質の高い家具の供給が必要だと判断して、2006年に設立しました。5名の職人を抱える小さな工房で、私自らもデザインに携わっています。輸出入会社(Phasouk Import&Export)も同様に、建設資材を確保するために設立したものです。現在は建材だけでなく、農業資材の輸入も行っています。不動産開発事業では、ピラタイプの家を中心に複数の物件を保有し賃貸事業を行っていますが、同時に自社が設計した建物のショールームにもなっています。当社の物件には日本人の入居者も沢山いらっ

しゃいます。

観光セクターについて

2009年にホテル事業へ参入し、ビエンチャン中心部に3つ星のAvilla Phasouk Hotel(22部屋)をオープンし、2016年には4つ星のPhasouk Vien Chantra Hotel(34部屋)をオープンさせました。

ご自身も設計士ですね？

私自身は事業家というよりも、むしろ設計士として捉えています。設計士として30年近く新しいことにチャレンジした結果、新たな事業を生み出したのだと思っています。設計士はクライアントを良く知ることから仕事を始めます。その嗜好やスタイルを理解し、医師が診断を行うように、理想の建物をデザインします。これはあらゆるビジネスにも共

通すると考え、自らの行動規範としています。現在、ラオス女性事業家協会の副会頭としてラオスの中小企業(SME)のスタートアップ支援を行う立場も担っていますが、企業の強みを分析し、より良いビジネスの方向性を共に探す作業は設計士の仕事に通じると感じています。

日本企業へのメッセージを

不動産開発では、多くの機能とノウハウの蓄積があります。また、良い立地条件の土地を複数保有していますので、コンドミニアムへの投資など資金力と運営能力を有する日本企業との協力関係は大歓迎です。ルアンパバーンの一等地にもゲストハウスや土地を保有していますので、観光開発の協業も期待します。また、家具や農産物などについても、今後は輸出も積極的に行っていきたいと考えています。



① Phasouk Vien Chantra Hotel 外観。② Avilla Phasouk Hotel 外観。③ 同社が設計建設に関与した Luangsay Residence。④ 家具製造工場の SC Furniture。

DATA

所在地：394 Sibounhueng Village, Unit 25, Chanthabouly District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-21-255978

設立年：2003

ホームページ：<https://phasoukchantra.com>



美味しいベトナム麺の代名詞。

Pho Zap

Ms. Viengvilay Bounleut / Owner

【略歴】1961年生まれ、シェンクワン県出身。越僑家庭の4世代目。10人兄妹の9番目。家業のベトナム麺屋を幼少より手伝う。1969～73年戦禍の激化によりベトナムへ避難。1973年シェンクワンに戻り再び麺屋を再開。1984年ビエンチャンへの移住を機に、衣服・靴、両替商などを営む。2005年麺屋を再開。以来ベトナム麺事業を順調に拡大させている。

生活・飲食・娯楽

お店について教えてください

「Pho Zap」(フー・セーブ)はベトナム麺のフォー(ラオス語でフー)のレストランです。両親が1950年代にシェンクワン県で始めたお店がルーツとなっており、スープやチアオ(ラオス味噌)は両親から受け継いだ秘伝の製法を守っています。戦争中は家族でベトナムへ避難したり、帰国後は他の事業も試したりしましたが、2005年にビエンチャンでお店を再開することができました。当初は10テーブルの小さな店舗で、従業員も6名でした。その後、徐々に人気の店となり、現在はサイロム本店を含め4店舗を120名のスタッフ体制で運営しています。本店をセントラルキッチンとして使用し、毎日各店舗に配送して味の統一を保っています。1日の販売量は約2,000杯。4月のラオス正月以外は、毎日朝6時から15時半まで営業しています。

名前に込められた意味は？

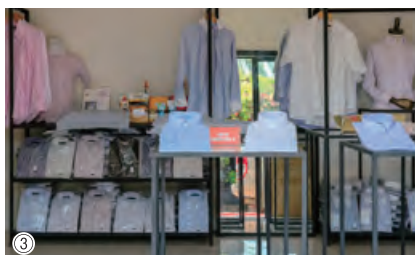
当店の名称はラオス語で「美味しいフー」という意味です。少々自信過剰な名前ですが、お客様に美味しいと思ってもらえなければ潰れるだけだと、思い切って付けてしまいました。私たちのお店は良質な素材を使い、両親から受け継いだレシピを再現しています。店内の清潔さも重視しています。オープンした頃のラオスでは、清潔な飲食店、特にベト

ナム麺のお店はほとんどありませんでした。当店は他の店よりも高い値段ながら、名前負けしていないお店としてビエンチャン市民に受け入れられたと思っています。今では多くのメディアで紹介されるだけでなく、歴代のベトナム首相がラオス訪問した際にも食べて頂いています。グエン・スアン・フック現首相には、三度も来店頂き、「インドシナー番のベトナム麺」と評価を頂きました。美味しさの秘訣は様々ありますが、スープが最も重要です。牛と豚の骨を丹念に20時間以上煮込み、アクをしっかりと取ることが基本です。魚のすり身や調味料なども、既製品は出来るだけ使用していません。

日本企業への期待は？

当店は今のところ家族経営ですが、5年以内に法人化を進めたいと考えています。これは私の子供の世代へ事

業を引き継ぎ、更に拡大していくためには是非とも必要です。その上でフランチャイズ展開や、タイやベトナムなどへ海外進出を考えています。残念ながら私たちにはこのような運営ノウハウはありませんので、日本企業にコンサルタント頂いたり、協業が叶えばありがたいと思います。飲食店の競争は厳しいものがあると思いますが、当店の味は受け入れられると考えています。また、私の子供が中心となり、幼児教育や衣服販売など新しい事業展開を始めています。幼児教育事業ではオーストラリア発祥の「KindyROO」を、2018年4月からスタートさせます。乳幼児の健全な神経学的発達に不可欠なスキルを養成する取り組みです。このようにレストラン以外にも新しい事業にも興味がありますので、日本企業の皆様に、ラオスにおける面白い事業計画があれば、是非ともご相談ください。



①多くの客で賑わう店内。②ベトナム麺フー。③レストランの横ではワイシャツの販売店も始めている。④タートダム店。

DATA

所在地：115, Sailom Village, Chanthabury District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-21-252555

設立年：1958

ホームページ：www.phozap.la



ミニマートからワイン・外食へ進出。 Phonesavanh Import & Export Co., Ltd. Mr. Vansom Vilivong / Director

【略歴】1953年生まれ、シェンクワン県出身。14歳の頃、戦火を避けるためサワンナケート県へ移住。教員養成学校で学び、小学校教員となる。革命後は1988年まで教育省で勤務。1989年にラオス初のミニマート「ピンボンマーケット」開業。1995年からワインの販売も開始し、2002年に同社を設立。

卸売・小売

生活・飲食・娯楽

不動産

御社の事業内容は？

当社は2002年に設立し、ワインを中心としたアルコール飲料、チーズやハムなどの食品の輸入販売を中核事業としています。ワイン販売事業では、「Van Som Wine Shop」をビエンチャンに3店舗、サワンナケートに1店舗展開しています。他にも、2003年から「タートダム・ワインハウス・レストラン」、2008年からは「ベノニ・カフェ」などの飲食店舗を運営しています。また、2010年からはラオス産のプレミアムコーヒーを使用して自家焙煎した「LE TRIO Coffee」の製造・販売も行い、直営のカフェもオープンしています。更に、2016年末にはビエンチャン市内中心部に、アパート「Triple Three Condo」を開業しました。事業は多角化していますが、当社の売上全体の約8割がワイン販売で占められており、ラオス国内のワイン市場の70%ほどのシェアを有しています。

ワイン販売のきっかけは？

1989年にラオス初の民営のミニマートとなる「ピンボン・マーケット」をオープンしました。当時はまだ配給制で、外交官が買い物できる店も限られている中、牛乳やバター、パンを販売したところ、非常に好評を得ました。当時の顧客ニーズからワイン販売の可能性を見出し、現在のワイン輸入販売事業に繋がりました。

1995年にプノンペンのワイン商社を訪ね、同年末にフランス産ワインの輸入を開始したのが最初です。現在は12カ国から年間40～50コンテナを扱っており、従業員は24名に増えています。自社小売店での販売はもとより、大手ホテルやスーパーにも商品を卸しています。卸先はビエンチャンだけでなく、ルアンパバーンやパクセーなどの地方都市も含まれます。売れ筋ワインはアルゼンチン産やチリ産で、全体の7割を占めています。価格が安く保存が利く5リットルのボックスワインが人気です。

成功の秘訣は？

当社はまだまだ発展途上で、常に前に進まなければならないと思っています。顧客に喜んでもらうためには、品質の良い商品を厳選し、同時に良いサービスや適正な価格で提供する必要があります。そのためには、まず自分がその商品を徹底的に理解し好きになった上で、他人に伝えることが重要であると考えています。また、ワインをはじめ各種の輸入食品は、多くのラオス人にとって新しい商品ですので、まずは顧客に理解を深めてもらう必要があります。当

社では、常にワインのテイスティング会や勉強会を開き、レストランのオーナーや従業員にワインの知識を伝え、トレーニングの機会を提供しています。また、何といたっても勤勉であること、そしてコンプライアンスを厳守し、国と共に発展することを重要視しており、国からの信頼を得ています。

日本企業への期待は？

今後、当社では日本の高品質なウイスキー、日本酒、焼酎などのアルコール飲料やお菓子、各種食材などを取り扱いと考えています。経済発展に伴い、ラオスにも高所得者が増加しており、日本の商品は売れると思っています。また、優れたデザインや機能性を持った、キッチン用品・調理用品の取り扱いにも興味があります。私個人としては、日本の小型自動車の販売に興味を持っています。ラオスは道路も狭く、駐車場も限られています。日本の小型車は耐久性に優れ、燃費も良いため、ラオスの自動車市場には最適です。また、排気量も低いので、税金も安くなります。是非ともラオスに小型車を根付かせたいと考えています。



① Van Som Wine Shop のデリカコーナー。②温度管理のされたワイン保管庫。

DATA

所在地： P.O. Box 1730, Thatdam, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-222647

設立年： 2002

ホームページ： <http://wine-laos.com>



世界遺産都市で経済特区を開発。

Phousy Group

Mr. Sithong Phommachith / Chairman

【略歴】1974年生まれ、ルアンナムター県出身。学生時代から母親の経営する建設会社を手伝う。結婚後の2005年から、岳父の経営するルアンパバーン県3位の建設会社 Phousy Construction 社の経営に参加。2009年に社長となり、以後同社を有力グループ企業に育て上げる。ラオス国立大学経済経営学部卒、センサワン大学大学院卒（MBA）。現在タイで博士号を取得すべく研究中。

建設

鉱業

電気・ガス・水道

不動産

グループの事業内容は？

ルアンパバーン県の建設会社からスタートした当グループですが、現在その事業は多岐に渡っています。中核となるのは建設事業ですが、鉱山エネルギー開発、石油輸入販売、経済特区開発にも進出しています。鉱山開発ではムアンゴイ鉱山（鉄・金）、ポントン鉱山（アンティモン）の2カ所の鉱山で開発権を取得し、探鉱を実施しています。小水力発電所事業ではルアンパバーン県内に5つのダム開発権を取得しており、ナムサナードダム（12メガワット）とナムセンダム（25メガワット）については近く建設に着手する予定です。石油事業では自社で輸入した石油を販売。プーシーラオペトロレウム（PLP）というブランドで、ラオス全国に60カ所のスタンドを展開しています。この内、10カ所は自社直営店です。その他にも、ホテルやニュータウン等の不動産開発も実施しています。

建設事業に関しては？

グループの中核事業である建設分野では、道路の建設・保守で実績が豊富で、ルアンパバーン県内の道路保守工事やバイパス道路・橋梁建設のみならず、ラオス南部でのカンボジア・ベトナム国境道路建設など全国で請け負っています。資金力を充実させることで、ラオスの建設業界のリーディングカンパニーを目指していま

す。2017年10月10日には Phousy Construction and Development (PCD) として、全発行株式の約17%に相当する1億株を公開し、ラオス証券取引所に上場を果たしました。今後予定している大きな事業としては、首都とラオス南部を結ぶ高速道路建設事業の一部区間の建設を請け負う見込みです。

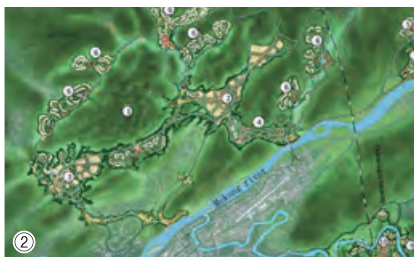
経済特区開発の進捗は？

当グループが進めるルアンパバーン経済特区（SEZ）開発は、世界遺産都市ルアンパバーンの周辺地4,850ヘクタールを、ラオス政府との合弁で開発する投資総額12億ドルの事業です。2016年から99年間の開発権を取得しています。現在、境界線の確認を実施しており、2018年から建設を開始する予定です。既にタイの大手病院、ショッピングモール、インターナショナルスクール、フランス系ホテル等

の入居が決まっています。また、中国ラオス鉄道のルアンパバーン駅が建設される周辺の土地もこのSEZ内となっており、輸送基地やニュータウン、商業施設の開発を計画しています。当社はSEZのデベロッパーですが、収益の見込める事業には合弁や独資で事業展開も行う計画です。

日本企業への期待は？

日本企業との間では、マイクロファイナンス事業を開始することで合意しています。今後も様々な事業を日本企業とも連携していきたいと考えています。特にルアンパバーンSEZは立地条件も良く、金融、医療、不動産等のセクターで、日本企業との協業を期待しています。建設会社からの視点としても、日本の設計技術を高く評価しています。ルアンパバーンSEZのランドマークとなるようなインフラ投資にも期待しています。



① 2017年10月10日の上場セレモニーの様子。②ルアンパバーン SEZ の開発計画図。③同社が建設したナムカン橋。④建設現場の様子

DATA

所在地： 6th Floor, Vientiane Plaza Hotel, Sailom Road, Hatsady Village, Chanthaboury District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856 21-265 394

設立年： 1989

ホームページ： www.phousy.com



農業観光のパイオニア。

Phutawen Tourism Co., Ltd.

Ms. Dalounny Douangpaseuth / Director

【略歴】1979年生まれ、ビエンチャン出身。ラオス国立大学で工学と経済経営学学士号取得。建設会社勤務後、バンコク大学でMBA取得。夫の建設会社であるDPSグループのエンジニアとして活躍する傍ら、ラオス北部でハンディクラフト製品や農村開発に携わる。2012年から農業観光開発支援のため「プータウェン・ファーム」構想をスタートさせた。三児の母でもある。

その他サービス

農林・水産・畜産

御社の事業内容は？

当社はラオス国内初となる、総合的な農業観光ファーム「プータウェン・ファーム (Phutawen Farm)」を運営しています。ビエンチャン中心部から東に64キロ、20ヘクタールの広大な土地に約400万ドルを投資して開発しました。2017年の開園後、わずか1カ月で20万人の来場を頂いた、ラオスでも人気の高い体験型アミューズメント施設です。バナナやパイナップルなどの果樹ゾーン、サラダ用葉野菜の水耕栽培ゾーン、日本の品種を採用したマスクメロンやアップルトマトのハウス栽培ゾーン、オーガニック野菜ゾーンをはじめ、牛・豚・家禽・養魚などの畜産ゾーンも整備しています。また、フラワーパークやポニーの乗馬など、家族で楽しむことが出来るアトラクションも用意しています。ファーム内で栽培されている野菜や果物の購入も可能です。入場料は大人1万キープで子供は無料です。

着想の源は？

元々、夫が経営する建設会社のエンジニアとして多くのプロジェクトに携わっており、ラオス北部を中心に様々な場所を訪問してきました。その中で目にしたのは、国際マーケットの影響を受け翻弄されるラオスの農村地域の経済的な疲弊です。そこで、農村の独自の発展には、農産品や

工芸品開発、農家の人材育成が重要だという考えに至りました。そこで、まずは自社農園を開発し、その農園で人々がトレーニングを受けることが出来る環境を整備することにしました。これが当ファームの発端です。生産物は自社建設会社の社員やワーカーだけでなく、都内のスーパーにも販売しています。同時に農業経営の学びの場として、地方出身の若者や農学部学生を雇用しました。そのような時に、アジア開発銀行から農業観光のアイデアをもらったことが、事業開始に至る大きな転換点となりました。①農業・食品加工、②観光、③商業、④環境保全、⑤人材育成、⑥協力の6つの柱を融合させることで、新たなビジネスと地域発展の場が生まれるという着想です。2017年1月にテストオープンしたところ、ラオスで日本のマスクメロンが味わえるとソーシャルメディア (SNS) で一気に有名になり、受け入れ能力を超

える来園者が詰め掛けました。

日本企業への期待は？

現在、更なる充実を図るため、レストランや民族工芸ゾーンの整備、ハーブ栽培や養蜂といった新たなゾーンも建設中です。当社は、外部からのビジネスのアイデアを常に受け付けています。共同出資や歩合賃料等の方式で、フードコートやマッサージ、レンタルサイクル、馬車、リゾート宿泊施設などの開発も進めています。日本企業に面白いアイデアがあれば、是非とも相談ください。また、今後は農産品だけでなく、加工品の製造や販売も増やして行く予定です。商品開発や品質管理を行うマネージャーが不足しており、日本に期待するところです。また、農業の現場では、害虫駆除や土壌改良など、技術的な側面でも支援を期待しています。



①ファーム内には様々な花が植えられている。②ラクダやポニーの騎乗サービスもある。③民族舞踊イベントの様子。④施設内にキャンプ場も併設されている。

DATA

所在地: Ban Naxay, Thaphabat district, Bolikhamxay, Lao PDR

電話: +856-21-214968

設立年: 2002

ホームページ: <https://www.facebook.com/phutawen>



先進的な技術で杭打ち業界を席卷。

ProCon Co., Ltd.

Mr. Thongphet Phouthavong / Director

【略歴】1982年生まれ、ビエンチャン出身。農家の家庭に育ち、2006年ラオス国立大学工学部卒。在学中がレストランのバイトなどで学費を稼ぐ苦学生。2006年～2013年、Zamil Steal にエンジニア&セールス担当として勤務。2013年、現社設立。マーク・ザッカーバーグ（Facebook）、スティーブ・ジョブズ（Apple）の経営をビジネスモデルと仰ぐ。

建設

御社の事業内容は？

当社は2013年に設立した建設会社で、工場建設における杭打ち、及びクレーンサービスに特化しています。特に杭打ち機は、油圧式2台、掘削式3台、ハンマー式3台のパイルドライバーを保有しており、ラオスにおける杭打ち作業の大きなシェアを占めています。また、保有するクレーン車は20台を超えており、リースにも対応しています。当社はサブコントラクターとして建設を請け負うことが多いのですが、顧客の6割は外国企業です。また、日本企業の工場建設にも多く関わっており、ビタパーク、サワンセノ経済特区、パクセー・ジャパン日系中小企業専用経済特区等で多くの実績があります。ラオス企業では、ピアラオや大規模ホームセンターの建設も請け負いました。設立時はエンジニアから営業まで私1人が何役もこなさねばなりませんが、現在は15名の従業員数を抱えるまで成長できました。

杭打ちに特化した理由は？

鉄鋼会社で多くの工場建設に関わる中、ラオスの杭打ち技術が非常に遅れていることを目にし、この分野での起業を決意しました。設立後初の大規模事業として、2013年にホングサー・リグナイト火力発電所における5万平米の褐炭原料ヤードの建設を担当し成功させています。

経営方針は？

新しい技術を積極的に導入し、業界で確固たる地位を固めることをモットーとしています。特に杭打ち機については、顧客の様々な要望に対応可能となっています。これまでラオス国内では、杭の製造に15日もの日数を要していましたが、2014年に外国から技術を導入し、プレストレスト・コンクリートの製造も始めています。これにより工期を大幅に縮小することが可能となりました。売上構成としては、杭打ちが50%、建設が25%、クレーンサービスが25%です。また、当社は工場や倉庫などを中心に受注しており、商業施設の受注には慎重に対応しています。これはラオスの商業施設の建設は十分な資金を前提に建設しておらず、支払いリスクが大きいからです。近年、中国やベトナム企業の進出が増加しており、杭打ちにおいても競争が激

しくなっていますが、当社は納期・品質・結果を重要視しており、他社の価格競争とは一線を画しています。

今後の計画は？

今後も杭打ち事業の質を高めていきます。現在、杭打ち機は中国やタイ製のものを使用していますが、高品質で耐久性のある日本製の導入を進めたいと考えています。しかし、価格が高いのが難点です。また、新たな事業として、電気機器や医療器具、自動車部品等の製造業に進出したいと考えています。ラオスは内陸国ですので、小さくて付加価値の高いものを製造する必要があると考えています。この分野では日本企業との合弁が理想です。また、妻は医師で都内3カ所で診療所を経営しており、今後は総合病院への展開を計画しています。



①



③

①ロータリーボアパイル掘削リグ。②クレーンを使用した工場建屋の建設。③ハンマー式パイルドライバー。

DATA

所在地: Road No.10, Xaysavang Village, Xaythany District, Vientiane, Lao PDR

電話: +856-30-5230111

設立年: 2013

ホームページ: <https://www.facebook.com/Proconlao/>



ラオスブランドの建設資材を製造 Santiphab Sangkasi Lao Co., Ltd. Mr. Sangkhom Chansouk / President

【略歴】1962年生まれ、ビエンチャン出身。1982年から旧ソ連タシケント大学に留学（機械産業工学修士）。帰国後、ラオ・ロシアポリテクニクカレッジで教鞭。1989年、現社の工場長に就任。1991年、全株式を取得しオーナーとなる。2011年、石膏採掘加工 Savan Gypsum Products を設立。ビエンチャン首都商工会議所会頭。2016年ラオスビジネスアワード受賞。

製造

御社の事業内容は？

当社は創業28年を迎える亜鉛メッキ鋼板（トタン）メーカーです。「スワン」というブランド名の高品質な波板屋根として、ラオス国内では広く受け入れられています。工場はビエンチャン市内にあり、以前はメッキ加工も行っていましたが、現在はメッキ加工済みの原料を輸入し、カットと塗装処理を行っています。ビエンチャン市内も開発が進み、都市が拡大する中、周辺住民への配慮も必要になってきています。工場の生産能力は年間390万枚、従業員は60名程度です。

新たな事業への投資も？

トタン以外の建設資材へ事業を拡大する目的で、石膏の採掘と加工事業に参入しました。約300万ドルを投資し、新会社（Savan Gypsum Products）を設立。サワンナケート県の436ヘクタールの土地における石膏の採掘権（コンセッション契約）を政府から取得し、2011年から操業しています。「ダイヤモンドプラスター」と「サワンジブサムボード」というブランドで、工場の生産キャパは石膏プラスターが年6万トン、石膏ボードが年500万平米です。品質マネジメントシステム（ISO9001:2008）や環境マネジメントシステム（ISO14001:2004）も取得しています。また、石灰は国内市場だ

けでなく、ベトナムのセメント工場にも供給しています。工場の稼働率は生産能力の30%程度に留まっていますが、今後、ベトナムやタイへの輸出を強化することで、伸ばしていきたいと考えています。

今後の計画は？

トタン、石膏に続き、建設資材の分野で事業を拡大する計画です。現在、ビエンチャン郊外の工業団地に、鉄鋼工場の設立を計画しています。高電圧送電鉄塔やメッキ鉄鋼の生産を予定しています。この事業には800万ドル程度の投資が必要になると見込まれています。そのため、ラオス証券取引所へ上場を計画しており、2016年末から財務コンサルタントを雇い、会計基準の導入・整備を急いでいるところです。2018年末の取引開始を目指して、準備を進めています。

日本との関係は？

亜鉛メッキ鋼板事業では、1989年の設立時から日本の商社の出資を受けていました。アジア通貨危機の影響を受け、残念ながら撤退となってしまいましたが、2001年まで12年に及ぶ日本企業との連携では、事業運営や製品づくりについて、多くの事を学ぶ機会となりました。現在、日本との関係では日本国際協力システム（JICS）と繋がりがあります。ノン・プロジェクト無償事業を請け負い、波型鉄板を生産・販売するもので、売上の一部をラオス政府に見返り資金として積み立て社会開発事業へと使用するというスキームです。日本企業に対する希望としては、やはり資本力と技術力を期待しています。また、当社だけではなく商工会議所を通して、他の企業とのマッチングの架け橋にもなりたいと考えていますので、是非ご相談ください。



①ビエンチャン市内の工場外観。②工場内の様子。③石膏ボード販売店。④石膏ボード。

DATA

所在地： P.O Box 1673, Kamphengmeung Road, Phonthan Village, Xaysettha District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-413325

設立年： 1989

ホームページ： www.sangkasilao.com



高認知ブランドを揃える輸入商社。 Savanvaly Trading Import-Export Co., Ltd. Ms. Vilakham Savanvaly / Director

【略歴】1948年生まれ、カンボジア・プノンベン出身。華人学校・瑞華学校高等部を卒業後、華人学校の中国語教員となる。内戦激化で1973年サワンナケートへ亡命し、市場で商売を営む。1991年同社設立。2005年 Savanxay Trading をビエンチャンに設立。サワンナケート県商工会議所理事、同県女性事業家協会副会頭、県華人協会元会長・現相談役、サワンナケート崇徳学校理事長を務める。

卸売・小売

御社の事業内容は？

当社は1991年の設立以来、調味料、飲料、菓子や洗濯洗剤、歯磨き粉などの日用消費財の輸入卸販売を行っています。サワンナケートに本社を置き、パクセー（チャムパサック県）、タケーク（カムアン県）に支店を展開しています。また、首都ビエンチャンとルアンパバーンには別会社の Savanxay Trading を設立し、ビエンチャン以北を管轄しています。自社物流センターはサワンナケート2カ所、パクセー1カ所、タケーク1カ所、ビエンチャン2カ所、ルアンパバーン1カ所の計7カ所あり、自社配送トラックは19台保有しています。従業員は全国で約250名となっています。

主な取扱商品は？

タイで製造された日用消費財が中心で、約100アイテムを取り扱っています。例えば、ロングライフ豆乳（UHT）の「ラクタソイ」は10年以上輸入代理店契約を結んでおり、ラオス国内の隅々まで卸しています。また、「ダッチミル」のヨーグルト飲料や「コルゲート」の歯磨き粉も国内で認知度の高い商品です。日本製品では味の素のインスタントラーメンや缶コーヒー、花王の洗濯石鹸などを取り扱っています。また、パナソニックの乾電池は、20年以上の販売実績があります。当社の商品の多

くはラオス市場で非常にシェアの高いものばかりです。タイのテレビを視聴するラオス人が多いことから、タイのテレビCMを通して商品の認知が広がり、展示会や市場での試食販売など地道な販促が実を結んだものと捉えています。月間の輸入額は3,500万バーツ（約1.2億円）です。

ラオス移住後の歩みは？

カンボジア内戦の激化に伴い、親戚を頼ってラオスのサワンナケートへ家族で亡命しました。ラオスでも1975年に革命があり、再び亡命することも考えましたが、なんとかサワンナケートに踏みとどまり、タイから輸入した商品を市場へ卸したり、食料不足が深刻だったベトナムへ食料品を届ける事業をしたりしました。1990年代に入り、ラオスの経済状況が好転したことで、現在の会社設立に至りました。大きな利益を求めず、

誠実に商いをしていたことで顧客も徐々に増えました。設立当初はタイの地方卸商から商品を仕入れていましたが、現在はメーカーから直接仕入れることができるようになっています。現在はベトナムへの輸出は殆ど無く、国内への商品の供給に注力しています。

今後の展開は？

まずは現在取り扱っている商品の販売強化に努めたいと考えています。将来的には自社ブランドの商品を製造したいという夢があります。これまで輸入販売が中心でしたが、ラオス国内で牛乳や豆乳などを製造し、ラオスの消費者にラオス製の商品を販売することが出来れば素晴らしいと思います。販売網はありますが、生産技術や経験は持ち合わせていないため、協力していただける日本企業がいればありがたいです。



①サワンナケート中心部の本社。②事務所内の様子。③物流センターは全国に7カ所。④配送用自社トラック。

DATA

所在地：Phongnotha Road, PO.Box 195, Savannakhet, Lao PDR

電話：+856-41-212330

設立年：1991



卸小売を軸に事業を多様化。

Sayam International Co., Ltd.

Ms. Suphitcha Ramasoot / CEO

【略歴】1964年生まれ、タイ・ナコンラチャシマー県出身。会計専門学校卒業後、バンコクの保険会社に勤務。結婚後は夫の不動産事業を手伝う。1997年のアジア通貨危機を契機に不動産事業を閉鎖。1998年ピエンチャンで輸入卸・小売を行う現社をラオス人パートナーと共に設立。以後ラオスを中心に事業を拡大させている。

卸売・小売

金融・保険

不動産

生活・飲食・娯楽

その他サービス

御社の事業内容は？

当社は各種消費材の輸入・卸・小売を基幹事業としています。家電やモバイル製品をはじめ、子会社（Market 5）では菓子・飲料や生活雑貨等を扱っています。ピエンチャンに本社を置き、ルアンパバーン、サワンナケート、パクセーにも支店を有しています。また、ロジスティックを統括するため、タイのバンコクにも事務所を構えています。自社物流センターはピエンチャンに約3,800平米を有する他、サワンナケートとパクセーにも保有しており、34台の配送車両でコンビニや個人商店など全国1万カ所以上の店舗に商品を卸しています。

家電・モバイル製品事業では、直営店「IT CITY SHOP」を全国に4店舗展開し、直接小売販売も行っています。日本ブランドでは日立と代理店契約を締結し、エアコン、冷蔵庫、洗濯機等を販売しています。また、2018年からはシャープ製品の販売も開始しています。家電はシーズンにより売れ筋が異なり、ラオスでは夏季にはエアコンや冷蔵庫、雨季には洗濯機の売上が増加します。食品・雑貨事業では現在約300品を取り扱っており、3年前からグリコの代理店となっています。タイで生産された日本のお菓子は味も良く、値段も比較的安いのでラオスでの売上が急増してきました。当社は基本的にメーカーと独占輸入代理店契約を締結した商品を扱っています。これはその商品

を長期的に取り扱い、マーケティングに力を入れるために必要な方法だと考えているためです。

他にも事業を？

タイで最も人気があり店舗数も多い美容クリニック「Wuttisak Clinic」のCLMV諸国でのフランチャイズ権を取得しています。現在、ラオス国内に3支店、カンボジア5支店、ベトナム2支店、ミャンマー2支店を合弁で展開しています。また、美容整形の「BB & TOP Clinic」も運営しています。保険事業ではタイの保険会社「Dhipaya Insurance」のラオス法人への出資を行い、経営の中核にも担っています。また最近では、日本料理としてラーメン店の「てんとらーめん」をオープンしました。日本人シェフに直接レシピの指導を受け、ピエンチャンで人気のスポットになっています。

免税店舗の開発も？

ラオス・タイ第1友好橋隣接地（ラオス側）に、床面積3万7,000平米の免税店モールの建設を進めています。本プロジェクトでは出資や出店を募っていますので、ご興味のある日本企業がいらっしゃればご相談ください。

今後の計画は？

今後も引き続き消費材分野の拡大の努めます。日本ブランドについても取り扱いを増やしていきたいと考えています。また、近く土産用の菓子の生産を開始します。ラオスには外国人観光客が手軽に購入できる土産物が少ないことから、タイの空港等へ商品を卸している企業と合弁でピエンチャンに菓子工場の設立を進めています。チョコレートやウエハース、クッキーなどの生産を行う予定です。



①家電・モバイル機器を販売する「IT CITY SHOP」。②美容クリニック「Wuttisak」。③日本のラーメン店「てんとらーめん」。④日本ブランドの菓子類の卸販売も手がける。

DATA

所在地： Po.Box 060/2, Ban Sikai-tha, Luangprabang Rd., Sikhothabong District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-513333

設立年： 1998



ホスピタリティビジネスで活躍。

SI Hospitality Consultings

Mr. Somock Inthavong / Entrepreneur

【略歴】1957年生まれ、ビエンチャン出身。5歳から14歳までフランスで教育を受ける。ビエンチャンでバカロレア（大学入試資格）取得後、1975年の革命直前にマルセイユ大学に留学。1983年にはホスピタリティ教育の最高学府スイス・ローザンヌ・ホテルスクールで学士取得。多くの国でホテル勤務。2009年に独立し、ホスピタリティ・コンサルタントとして各地で活躍。

その他サービス

御社の事業内容は？

当社はホスピタリティ・マネジメントにおけるコンサルタントとして活動しています。具体的にはホテルやリゾート、レストランなどの分野において、コンセプトの立案や事業計画策定といった企画段階から、施設のデザインやマーケティング戦略の立案まで、ホスピタリティ事業における総合コンサルティングを提供しています。また、料飲・客室・スパなどの運営指導や、リクルートを含む人材育成もカバーしています。当社のサービスは、私自身の25年に渡るホスピタリティ業界での経験と知識に裏打ちされたものです。

どのような経験を？

私はビエンチャンで生まれましたが、5歳から14歳までをフランスで過ごしました。帰国してビエンチャンのリセでバカロレア（大学入学資格）を取得し再び渡仏、マルセイユ大学で経済学を学びました。1979年にホスピタリティ教育では最高学府といわれるスイス・ローザンヌ・ホテルスクールに入学し、4年後に国際ホスピタリティマネジメント学部でホテルマネジメント学士号を取得しました。結婚後はアメリカに渡り、オレゴン州ポートランドの小さなホテルの従業員としてキャリアをスタートしました。そこでアメリカ式のビジネスを学び、その後はサン

フランシスコのフォーシーズン、シंगाポールのシェラトンをはじめ、バリ島やチェンマイなどの一流ホテルに勤務。約13年間に渡り、料飲部門責任者や執行委員として経験を重ねました。2004年から5年間、総支配人を務めたチェンマイの DusitD2 ホテルでは、数々のアワードを受賞するホテルに育て上げました。このような経験を基に、2009年に独立し、ホスピタリティ・コンサルタントとして活動することになりました。

コンサルティング実績は？

プノンペン市内中心部で、「Sun & Moon Urban Hotel」の開業に携わりました。この時はまさにゼロから立ち上げで、オーナーが保有する土地の立地条件を分析し、コンセプト立案から設計、建設、人材育成と2年半を掛けて、2016年2月にオープンに至りました。今ではプノンペン市内でも人気のホテルのひとつとなっています。現在進行中のプロジェクトとしては、メコン川クルーズ船「メコン・キングダム」があります。ラオスが誇る世界遺産都市ルアンパバーンとタイのチェンコンを結ぶ、2泊3日の高級クルーズ船サービスで、

近く運行が開始される予定です。コンサルティングにおいて最も重要視しているのはプロジェクトのコンセプトを明確にすることです。この事業でもコンセプトに沿って予算を調整し、同時にブランドの構築も必要となります。また、人材育成も非常に重要です。多くの方は人材育成への投資をないがしろにしがちですが、チーム全体にブランドを理解させ、将来へのビジョンを与えることが必要です。

日本企業へのメッセージを

現在、ラオスではホテルやレストランの開発が進んでいますが、性急でビジョンの無いままに開発を進めているように思われます。海外有名ホテルチェーンであれば、名前を聞いただけでサービスのイメージできるほどブランドが確立されていますが、ラオス国内のホテルはまだこのレベルではありません。この点では開発チャンスがまだまだあるでしょう。また、ルアンパバーンやパクセーでは質の高いサービスアパートが不足しています。バリューの高いサービスを提供する中規模のサービスアパートが適していると思います。



①プノンペンの Sun & Moon Urban Hotel。②メコン川豪華クルーズ船事業(メコンキングダム)。

DATA

所在地： Nongbuathong Village, Sikottabong district, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-20-5529-4113

設立年： 2009



日本の水準の歯科治療をラオスに。

T.S.K Dental Center Sole Co., Ltd.

Mr. Towada Yoshisato / Director

【略歴】1955年生まれ、シエンクワン県出身。ビエンチャンの法科大学へ進学するも、1975年の革命で就学を断念し、父の経営する歯科クリニックに勤務。1980年家族と共にタイへ亡命。翌年日本政府の難民受け入れ。1987年日本国籍取得。1990年歯科技工士免許を取得。歯科病院で2年勤務、4年間の歯科技工所を経営する。1997年ラオスへ帰国し歯科病院を開業。

医療・福祉

卸売・小売

御社の事業内容は？

当社は2012年に首都ビエンチャンで開業した、100%日本資本の歯科病院です。歯科医と歯科技工士がそれぞれ6名と歯科助手8名が勤務し、院内で差し歯や入れ歯を製作する歯科技工所を有するラオスでは数少ない歯科病院の一つです。私自身も歯科技工士として働く傍ら、院長として病院経営にも携わっています。当院は日本水準の歯科医療サービスを、当地ラオスの料金で提供することを使命としています。入れ歯、差し歯、矯正など、あらゆる歯科治療が可能です。検査や相談には無料に対応しています。患者は年間6,300人程度でしょうか。多くの方が当院の治療とサービスに満足されており、再診率も高くなっています。また、歯科用品や機器を扱う会社として、Chanthai Dental Equipmentも設立しています。輸入機器のみならず、ラオス国内でも一部生産している、日本企業の歯科治療器具の卸販売も行っています。

日本で歯科技工士を？

父が小さな歯科クリニックを営んでいたため、若い時から歯科助手として現場に出ていました。1981年に日本の難民認定が許可された際には、その経験を活かし、歯科技工士のアシスタントとしての職を得ることが出来ました。約10年間のアシスタントの経験に加え、歯科技工士専門

学校で2年間学び、日本の国家資格である歯科技工士免許を取得しました。その後は日本で歯科技工所を営んでいましたが、ラオスに残る母の看護が必要になったことや、ラオスへの貢献を模索していたことから、1997年にラオスへ帰国。歯科病院を開院しました。

治療設備は？

歯科医療機器の「ユニット」と呼ばれる歯科治療イスは、20年前に日本から中古で購入したのですが、現在でも十分に使用できています。オートクレープ滅菌も日本製です。エックス線は小型の日本製以外に、イタリア製のパノラマエックス線を導入しています。差し歯や入れ歯を作る歯科技工所では、昔ながらの技師の手作業による製作以外にも、3次元の歯科用CAD/CAMシステムを導入しています。ミリング（切削）加工装

置は中国製を使用しています。

今後の計画と日本への期待は？

首都ビエンチャンでは近年歯科治療の水準も向上してきていますが、地方では県立病院ですら遅れているのが実態です。当院としてもルアンパバーンやパクセーといった地方都市への事業の拡大が必要だと考えていますが、資金だけでなく人材の確保も必要です。歯科医と歯科技工士、それに歯科衛生士の育成はラオスにとって急務と言えるでしょう。現状では国家資格制度が存在せず、専門の教育コースもないことから、各病院が独自に育成していますが十分とは言えません。また、地方ではユニットやエックス線、殺菌器など、基礎医療機器も不足しています。日本で不要になった中古品があれば、是非とも寄付していただければうれしく思います。



① 歯科治療の様子。② 三次元歯科用CAD/CAMシステムによる設計。③ 入れ歯の作り込みは歯科技工士による手作業。④ 同社が扱う日系歯科治療器具。

DATA

所在地： Chaoanou Road, Tongtoun 216/17, Chanthabury District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-240782

設立年： 2012



世界遺産都市を設計する。

Thansamay Co., Ltd.

Mr. Bounkham Chaleunphol / President

【略歴】1974年生まれ、ルアンパバーン出身。親戚を頼り高校からフランスへ6年間留学。芸術学校で抽象画を学ぶ。帰国後、ピエンチャン建築学院で建築学を習得。2002年、実家の建築資材店を手伝うために故郷に戻る。2005年、タンサマイ設計会社設立し、ユネスコ世界遺産事業の設計コンサルを担う。2008年、現社設立し多くのホテル建設に関わる。2012年自社ホテルをオープン。

建設

不動産

その他サービス

御社の事業内容は？

当社は設計および建設を行う建設会社で、世界遺産都市ルアンパバーンを中心にホテルや観光施設を得意としています。ルアンパバーンは1995年に世界遺産登録されましたが、景観や文化保全を目的に、ユネスコの厳しい基準が設けられました。2005年の設立当初は設計コンサルタントとしてホテルやゲストハウスへとアドバイスを行っていましたが、顧客から建設も依頼されることが多くなり建設会社へと拡大しました。アマタカ、ソフィテル、ルアンパバーンビュー、ジュリアナ等、ルアンパバーン市内のホテルの7割は当社が何らかの形で関わっています。2017年にオープンした高級ホテルである現 AVANI+ (旧 AZERAI) は、当社が設計から建設まで全て請け負ったものです。丁寧に細部にこだわり、納期を守ることで定評を得ています。

自社ホテル事業は？

多くのホテル建設に携わったことで、ホテル経営にも興味を持つようになりました。2012年に開業したキリダラホテルは、設計から建設まで当社で行っています。ユネスコの基準を厳守しつつ、ラオス様式の自然の素材を活かし、内装や家具はモダンなものを取り入れています。地形変化が認められない保全区にあるため、丘陵地の斜面を活用した設計を採

用しています。全ての部屋からルアンパバーンのランドマーク「プーシーの丘」を一望することができる開放的な設計です。質の高いサービスを維持し、利益を出すためには私の計算では22部屋以上を確保する必要がありますが、ルアンパバーンの小さな観光マーケットを考慮して24部屋としました。食事やスパにもこだわっており、レストラン (Chef's Table) は World TOP Gourmet Awards 2017を受賞しました。今では欧米や日本など多くの観光客が宿泊して頂いています。更に、街の中心部にはキリダラビラ等、プライベートヴィラを3棟展開しています。

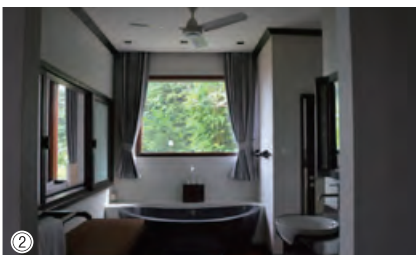
今後の展開は？

キリダラホテルは今後はキリダラブランドとして、プライベートビラを展開していく考えです。また、2015年からルアンパバーンから14km地点

にナムドンパーク自然公園の開発を進めています。ここでは環境保全型の観光施設です。日帰りパッケージや伝統的な家屋への宿泊パッケージなど、ラオスの自然や伝統に触れてもらうことをコンセプトにしています。2017年からは街中心部にあるファンチャン (月の家) というルアンパバーン文化センターを政府とパートナー契約を締結し運営を開始しました。これはどちらかと言うと社会貢献活動に近いです。

日本企業への期待は？

まずは日本人のルアンパバーンへの観光増加を期待しています。さらに観光セクターでは設計・建設のみならずレストランやホテル等の共同出資など良いアイデアがあれば是非とも日本企業と協業したいと考えています。特に養老施設は面白いと思いますよ。



①丘陵に立つキリダラホテル外観。②ホテル内のスパ施設。③プールサイドからの眺望。④新たに開業したプライベートヴィラの宿泊施設。

DATA

所在地： 3/9 Setthathirad Rd, P.O. Box 078, Luang Prabang, Lao PDR

電話： +856-71-260555

設立年： 2005

ホームページ： www.thansamay.net



ラオスを代表する農業生産者組合。 The Bolaven Plateau Coffee Producers Cooperative Mr. Bounthong Thepkaisone / President

【略歴】1975年生まれ、チャムパサック県出身。バクソン高校卒業後コーヒー農家を継ぐ。2005年コーヒー生産者グループを同じ村の10世帯で組織。2007年フランスAFD支援で生産者グループを統合。2010～13年、監査理事を務める。2013年から組合長に選出され現在2期目（任期3年）。自身も5ヘクタールのコーヒー農園を営む。

農林・水産・畜産

卸売・小売

組合の概要は？

コーヒー生産者による農業協同組合で、現在ラオス南部のチャムパサック県、セコン県、サラワン県の3県で47生産者グループ、1,093世帯で構成されています。2005年からAFD(フランス開発庁)の支援で国内コーヒー生産者の組織化が図られ、2007年に生産者協会として立ち上げられました。その後2010年に「協同組合に関する首相令(136号)」の発布を受け、2014年から現在の生産者組合となりました。常駐スタッフは34名で、品質管理やオーガニック管理など、生産者グループ支援を中心に活動しています。2009年にオーガニック認証とフェアトレード認証を取得し、輸出も開始しました。2010年にはAFDの支援を受け、日産20トンの処理能力を有するドライミル工場を設立しています。国内市場向けに焙煎施設も稼働しています。2011年にはカップリング・ルームを開設し、ロット別の品質管理も強化しました。新たな取り組みとして、2015年から農業観光を開始しています。ボラベン高原の自然や農園を楽しみ、工場訪問、ホームステイなど、少人数向けの観光アクティビティを提供しています。

活動内容と戦略は？

非営利組合として、持続的な生産を実現する様々な取り組みを実施しています。組合員は一人10万キープ

の出資人と位置づけられます。フェアトレード(国際フェアトレードラベル機構)とオーガニック(ACT Organic Standards)認証を受けており、プレミアム価格でヨーロッパ、北米、アジアの市場へ輸出することが可能です。2015年は1,233トン、2016年は1,070トンの生豆を輸出しました。取り扱う大部分は高品質なアラビカ品種です。また、自社焙煎したコーヒーは、国内市場向けに年7トン程度販売しています。フェアトレードの基準を満たすことで、コーヒー豆の農家前買付け価格は一般価格よりも5年間平均で47%高く保っています。また、売上の一部を生産者トレーニングや組合員の生活向上に還元しており、各地で小学校や井戸、医療施設の建設なども進めています。オーガニック生産では、全組合員が厳しいルールに従う必要があり、より良い品質を目指し、トレーニングにも力を入れています。

今後の展開は？

今後も4つの活動指針のもと、組合と生産者の発展を進めていきます。①組合員の増加、②環境対策や生活向上などのコミュニティ支援、③ボラベンコーヒーのブランド化のための地理的表示保護制度(GI)の活用、④高品質コーヒーの生産です。また、コーヒー園にマカデミアナッツ、アボガド、ジャックフルーツなどを混植し、収入源の多層化を図ることも計画しています。この取り組みには、マーケットを確保することが前提となります。日本企業との取引を是非強化したいと思っています。また、組合運営においては、日本のJAやメキシコなど、様々な先事例を研究させてもらっています。このような研究成果や運営ノウハウは、国内の他組織へ共有していきたいです。また、海外の組織との連携、協業にも積極的に取り組みたいと思います。



①コーヒーチェリーの精選後の乾燥作業。②脱殻乾燥したコーヒー豆。③倉庫とドライミル工場。④ドライミル設備。

DATA

所在地: P.O.Box 614, Pakse, Champasack, Lao PDR

電話: +856-31-214126

設立年: 2007

ホームページ: www.cpc-laos.org



自動車教習・車検のパイオニア。

Thong Sang Nang Driving School

Mr. Inthanong Keosila / Director

【略歴】1985年生まれ、ビエンチャン出身。2008年工業専門学校機械科卒業。在学中の2006年から神奈川県綾瀬市の金属工場で1年間の研修を経験。ラオス国立大学工学部機械科に編入し2010年卒（学士）。卒業後、父親が経営していた自動車教習所を引き継ぐ。

その他サービス

御社の事業内容は？

当社は自動車教習所と車検センターを運営しています。1994年に自動車教習所として公共事業運輸省の認可を受け、ビエンチャン市内に3校（ポンサワン校、シーカイ校、ドンコイ校）と南部チャムパサック県に1校（パクサー校）を展開しています。教習所はバイク、普通自動車、トラック、バス、重機のコースがあり、普通自動車教習では20時間の学科と12時間の技能のカリキュラム構成になっています。ラオスの自動車技能教習は、教習車1台で複数名の生徒が相乗りするスタイルが一般的ですが、当社はマンツーマンの技能教習を実施している唯一の教習所です。このため、受講料は他よりも若干高めで、150万キープ（約2万円）に設定しています。

車検サービスの概要は？

車検サービスは当社の重要な柱となっており、政府の委任を受けて1998年から実施しています。全国に7カ所の車検センターを展開。首都ビエンチャンに2ヶ所の他、チャムパサック県、ルアンパバーン県、ビエンチャン県、ボリカムサイ県に進出しています。尚、ビエンチャンでは国営を含め4カ所の車検場があります。また、免許取得にきた若者向けに職業斡旋をする、CvConnectという会社もスタートさせています。

利用者は？

自動車教習所では普通自動車の受講が最も多く、ビエンチャン3校で年間2,400人程度、トラックは1,800人程度、重機はおよそ200人です。一方、バイクは年間100人程度と、非常に少ないのが特徴です。ビエンチャンでは毎年6万台の車両が新規登録されています。その内、約6割がバイクですが、運転者の意識が低く、無免許運転が多いことが背景にあります。交通事故も年々増加しており、当社でも学生向けのセミナー実施や教習料金の学割を導入していますが、バイク免許取得への理解は進んでいません。車検は年間3万から4万台の実績があります。ラオスでは全ての車両は毎年車検を受けることが義務付けられており、車検サービスは当社の安定した収入源です。売上比率としては、おおよそ6割が車検、4割が教習所となっています。

今後の計画は？

運転免許の本試験は、今まで政府の試験場で受ける必要がありましたが、2018年中に当教習所で本試験受験と免許証の発行を開始する予定です。このため、約30万ドルを投資して、新たな車両や試験システムを導入しました。また、ラオスには大型トレーラーや牽引の免許制度がありませんが、現在、政府がそのカリキュラムを作成しています。新制度が策定された際には、これら専用の教習所を展開したいと考えています。また、ルアンパバーン、サワンナケートでも教習所を開く計画です。そして、今後はオンライン講習、教官育成、学資ローン等のニーズが高まります。交通事故数削減には二輪免許取得の促進が急務でしょう。これらの問題解決やノウハウの提供に、日本企業からの協力や提携に期待したいと考えています。



①自動車教習所ビル（ポンサワン校）。②トラックの技能実習風景。③パソコンを使った模擬試験の様子。④車検場。

DATA

所在地： Phonsavang Village, Chanthabuly District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-263557

設立年： 1994

ホームページ： www.laodrivetech.com



不動産開発に強み。

TK Group Sole Co., Ltd.

Mr. Thatnakhone Thammavong / President

【略歴】1981年生まれ、ビエンチャン出身。ラオス国立大学（経済経営学部）卒業。シンガポールへ留学し、シンガポール経営学校修士、ヨーロッパ大学 MBA 取得。在学中の2005年にITベンチャー企業（TK Sole Co., Ltd.）を設立。帰国後は投資コンサルタント、設計建設、不動産、発電等へ事業を拡大している。

不動産

建設

電気・ガス・水道

情報通信

卸売・小売

御社の事業内容は？

当社はIT、建設、不動産、発電など多くの事業を行うグループ企業です。2005年に設立したITソリューションサービスのTK Sole Co., Ltd.を皮切りに、その後、ITシステム（TK Support）、投資コンサルタント（TK Investment Consultant）、建築設計（TK Architect & Landscape）、建設（TK Construction & Road）、不動産投資（TK Capital）、発電（TK Power）と順次拡大を重ねてきました。2015年6月には、資本金500億キープでグループ化しています。発電事業では、これまでに「セナムノイ1及び6」と「セムギアプ3A」の3カ所の水力発電所を稼働させており、現在、新たに3カ所の調査を実施しています。建設事業では、政府庁舎の建設や、送電線建設などを実施してきました。また、2015年には、ラオスで組み立てたエアコン「Super Cool」の販売を開始しています。ラオス国産エアコンとして、省庁ビルでも積極的に利用していただいています。更に、2016年にはフランスのエンジンオイル「ToTAL」のラオス国内での独占販売権を取得し、一般自動車や鉱山会社向けに販売を開始しました。

IT関連事業は？

ラオス証券取引所や電力公社、中央銀行などに、セキュリティシステ

ムを納入しています。ポーテンやドンポーシーといった経済特区向けに、ICTサービスも提供しています。また、ラオス・タイ第1友好橋の通行料徴収事業では、スマートカードを導入しています。カードのチャージは、BCEL銀行のモバイルバンキングを利用できます。この通行料徴収権は、当社がラオス政府から10年間のコンセッション契約で取得しているものです。今後はスマートカードの利用範囲を広げ、コンビニエンスストアや他の銀行サービスとの提携を計画しています。現在は、特にフィンテック（ITを活用した金融サービス）に注目しており、日本の優れた技術に期待したいところです。

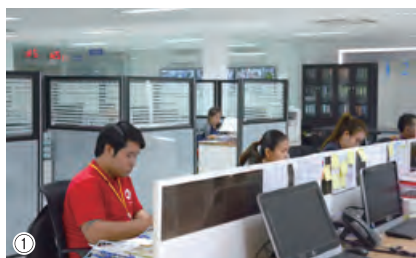
不動産開発事業は？

ラオスではホテルやアパートなど、不動産開発の成長が大いに期待できます。当社は首都の一等地を政府から長期リースし、その開発権を取得しています。近く4星ホテルを建設する計画です。その他にも、ルアンパバーンやヴァンヴィエンといった観光地でのホテル建設や、アパートの建設を計画しています。また、ボリカムサイ県のバクサンでは、ラオ

ス・タイ第5友好橋の建設が予定されていますが、周辺74ヘクタールの土地を利用して、総合的な開発も行う予定です。工業、ロジスティックス、免税、ホテル等、総合的な開発を計画しています。また、ビエンチャン中心部でマイスクウェアという商業ビルにも投資しています。

日本企業への期待は？

当社が進めるバクサン開発へ、日本の製造業やサービス業の進出を期待しています。また、日本型のショッピングモール開発でも協業したいと考えています。隣国カンボジアでは既に成功例が見られるように、ラオスでも日本型の商業施設は受け入れられると分析しています。日本のファストファッションを周辺国に買出しに行くラオス人も多く、各種小売事業でも協力関係を築きたいと考えています。また、ラオスには肥沃な土地が未開発のまま残されていますので、農業分野への投資も期待できるでしょう。イチゴやメロン、ブドウ、などの付加価値の高い日本の品種を導入したいと考えています。これには日本の技術者に指導をお願いしたいと思っています。



①明るく機能的なオフィス。②ビエンチャン市内中心部にある同社のオフィス。

DATA

所在地： 3/33 Ban Simuang, Samsenthai Road, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-254841

設立年： 2005

ホームページ： <http://www.tkgroup.la>



ICT でラオスの教育革新。

Top Value Service Sole Co., Ltd.

Mr. Thanousone Phonamat / Chairman&CEO

【略歴】1973年生まれ、ビエンチャン出身。ドイツのフンボルト大学でMBA取得。帰国後、PC販売やネットカフェ経営を経て、2000年にISPライセンス取得。現在はコンサルティング、ISP事業、学習支援、各種IT検定、書類デジタル化など、幅広い事業分野に拡大。自社ブランドのデバイス開発事業にも乗り出している。ラオス商工会議所理事、ラオスICT協会副会頭。

情報通信

コンサルティング

教育・学習支援

御社の事業内容は？

Top Value Service (TVS) はコンサルティングサービスを中核ビジネスとした、テクノロジー分野に秀でた企業です。世界銀行やアジア開発銀行等における教育、保健、農業など、様々なプロジェクトマネジメントに携わってきました。コンサルタントで養った知見を活かし、ビジネスを介してラオスの教育セクター、特にICT分野の普及に力を入れているのが特徴です。

ICT 事業に関して

ドイツ留学から帰国し、PC販売やネットカフェの事業を始めたことが、この分野へ参入したきっかけです。2000年にISP（インターネットサービスプロバイダ）ライセンスを取得して以後、ICT分野に注力してきました。「Planet」ブランドでは、光ファイバーや4G回線のネット環境を提供しています。各種検定を実施する「IIG Education Laos」では、TOEICやTOEFLなどの英語検定だけでなく、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（MOS）、アドビ認定アソシエイト（ACA）、GRE（Graduate Record Examination）等のIT技術者向けの検定も実施しています。更に、マイクロソフト及びETS（教育テスト・評価を実施する米系非営利団体）とのパートナー契約のもと、ITと英語のトレーニングコースを提供する

「Lao IT& English Academy」も設立しています。また、書籍・書類のデジタル化サービスとして、「Lao Digi」も立ち上げています。2015年には当社独自デバイスの「ALO!」を開発しました。現在はまだパイロットプロジェクトの段階ですが、中国と台湾でOEM生産したスマートフォンとタブレットPCを、主に学生向けに販売しています。

教育 ICT に注力する理由は？

ラオスでは教育分野への国家予算配分が限られており、今の時代に必要なICT教育が全国に行き届いていません。安価で使い勝手の良いシステムの開発は急務でした。「ALO!」を開発したのも、このような背景があったことです。「ALO!」のタブレットPCは、マイクロソフトからの支援を受け、安価なOSとともに、オンラインで英語やICTを学べるEラーニン

グソフトが付属されています。独自開発のバッテリーやWIFIモデムと併用することで、地方の学校においても省電力で授業を行うことが可能です。今後、このシステムを全国の学校に普及させることを目標としています。

今後の展開は？

現在、郵便通信ネットワーク省と、Eガバメント（電子政府）について協議を進めています。政府内では無料メールが広く使用されていますが、セキュリティの高い環境を早急に確保する必要があります。また、テレビ会議システムや文書デジタル化など、やるべきことは多くあります。商業銀行や国際機関向けにもEウォレットやデータベースなどビジネスアプリケーションの導入を進めて行く計画です。この分野では日本の技術にも大いに期待しています。



① 本社ビル。② ISP「Planet」のサービスカウンター。③ ALO! ブランドのスマートフォン (Android)。④ ALO! ブランドのラップトップ PC (Windows)。

DATA

所在地：164 Samsenthai Rd, Kaoyord Village, Sisattanak District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-21-254377

設立年：1997

ホームページ：www.topvalueservice.com



ラオスで先端を行くテレビ局。

TV Lao Co., Ltd.

Dr. Hongkham Souvannavong / CEO

【略歴】1964年生まれ、シェンクワン県出身。70年代の戦時下に中国の小学校で学ぶ。レングラーード大学で国際経済関係修士取得。帰国後、外務省勤務。1990年からニューヨーク国連本部勤務。1995年ハワイ大学でMBA取得。1996年に独立し、自動車販売、番組制作事業を経て、2012年に現社設立。2014年タイ North Eastern大学で博士号取得。ラオス商工会議所理事、青年企業家協会会長。

情報通信

御社の事業内容は？

当社はテレビ放送事業会社で、24時間放送の「TV ラオ」というチャンネルを運営しています。放送プラットフォームは衛星及びケーブルです。2010年に設立したラオス国営テレビ向けの制作会社が前身となっています。番組制作を進める中で、メディアとしてのテレビのニーズと放送事業への可能性を感じ、2012年にテレビ放送事業への参入を決意しました。テスト放送を経て、2013年3月から正式に放送を開始しています。5階建ての本社ビルには、600平米のスタジオを構え、番組の企画・撮影・編集・放送を行っています。

チャンネルの特徴は？

「TV ラオ」はラオスで唯一 HD 放送（高精細度テレビジョン放送）に対応しており、ラオス国内のみならず世界25カ国に放送網を広げています。また、またラオスの放送局としては初めて、品質マネジメントシステム(QMS)のISO9001:2008も取得しています。番組構成は「ラオ・アップデート」等のニュース番組の他に、トークショー、音楽エンターテインメント、ドラマ、スポーツなど多彩なコンテンツを提供しています。スポーツではサッカーが人気で、ラオス・プレミアリーグや AFC カップ、ワールドカップなど FIFA 国際マッチなども中継しています。

ミスコン事業にも参入を？

当社では積極的にティー・ページェント(ミスコン)の主催・放送を行っています。ミスコンは注目度が高く視聴率が期待できます。スポンサーからの評価も良いため、コマーシャルを収益源とする放送局にとっては、魅力的なコンテンツです。「ミス・ラオス」は2015年から独占生中継しており、「ミス・ユニバース・ラオス大会」のフランチャイズ権も2017年から取得しています。また、「ミス・グランド・ラオス大会」や「ミス・スプラナショナル・ラオス大会」は当社が主催し放送しており、いずれも国内注目度が非常に高いイベントとして大成功しています。

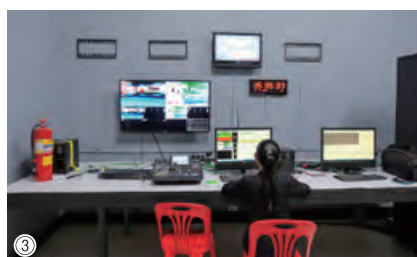
今後の展開は？

ラオスを代表する先進的なテレビ放送局として、番組品質の更なる向

上を進めながら、先端技術の導入を積極的に進める予定です。現在、既に HD 放送を行っていますが、今後は4Kや8K放送にも対応して行きたい考えです。これらの資金調達するため、ラオス証券取引所への株式上場を準備しているところです。

日本への期待は？

今後は更に魅力的な番組構成を構築するため、ドラマや映画、バラエティ番組など日本のコンテンツ導入を積極的に図りたいと考えています。また、日本の観光スポットや文化を紹介する番組もラオスでは人気が高く、これら日本のコンテンツの権利保有企業とのマッチングに期待しています。ラオス語の字幕や吹き替えには当社で対応できます。更に、当社で使用している撮影・放送機材のほとんどは日本製ですので、最新機材の導入にも興味があります。



① TV ラオ本社ビル。②ニュース番組やトークショーで使用されるスタジオ。③放送調整室。④ミスラオへの取材風景。

所在地: Hom 3, Ban Phonphanao, Xaysettha District, Vientiane, Lao PDR
 電話: +856-21-415303
 設立年: 2012
 ホームページ: <https://www.facebook.com/TVLAOHD>



長年に渡り日系企業と関係を構築。

VEEC Group

Mr. Bountheo Phommaseisy / President

【略歴】1950年生まれ、ビエンチャン出身。高校卒業後ラオス電力公社（EDL）入社。技術部長として技術研修センター、変電所、ナムグム1拡張事業、送電線建設事業等に携わる。退社後の1989年VEEC GROUP中核企業のVientiane Electrical Engineering設立。その後、2002年にケーブルハーネス、2008年にサッカーボールOEM製造開始。「危機を革新の機会とせよ」がモットー。

製造

卸売・小売

教育・学習支援

グループが採用しているスタッフの9割は本校で学んだ生徒です。

ン中心部から30km北にあるイライ村に、約15ヘクタールの土地を確保しており、既にサッカーボール工場の一部などグループ機能の一部を移転しています。今後、ケーブルハーネス工場の移転も視野に入れています。

御社の事業内容は？

VEECグループは7社で構成されており、総従業員数は約650名です。1989年設立のVientiane Electrical Engineeringが中核企業となっており、送配電システムの設置・建設を中心に発電所やワッタイ国際空港、衛星地上ステーション等の主要施設の実績があります。その後、1994年にはラオス初のコンクリート電柱を製造するVientiane Concrete Pole Factoryを設立しました。2002年には、内装工事も手がける建設施工会社としてVientiane Engineering Constructionを、また日系企業向け自動車用ケーブルハーネスの製造を行うVientiane Automation Productsを設立しています。更に、2008年には飲料水工場（Vientiane Pure Drinking Water）を、2012年には日系企業向けにサッカーボールの製造を行うVientiane Equipment Factoryを立ち上げています。この工場では現在年間約7万個のサッカーボールを生産しています。

日系企業との関係は？

当グループではケーブルハーネスやサッカーボールなど、日系企業の委託を受けることを通して、技術だけでなく、企業文化など多くの事を学んでいます。具体的には、「5S運動」（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、「カイゼン」、「カンバン方式」、「品質管理（QCサークル）」等を積極的に導入しています。「人材が企業の柱である」ということも日系企業から学んだことのひとつで、職業訓練学校を設立したのもこのような企業文化の影響を大きく受けたものです。

日本企業への期待は？

日系企業に対しては製品の種類を問わず、各種製造業の分野で引き続きパートナー関係を続けていきたいと考えています。もちろん、委託先工場としてだけでなく、合弁事業も歓迎します。また、これまで当グループはエンジニアリングを中心としてきましたが、今後はトレーディングセクターの強化を考えており、このため高い品質を有する日本ブランドの電気設備や送電用機器の取り扱いに興味があります。また、人材教育の分野でも、日本との協力関係構築を歓迎します。

今後の計画は？

事業拡大に伴い、現在の工場が手狭になっていることから、ビエンチャ



従業員育成にも注力？

当グループでは従業員の能力向上を目的とし、Vientiane Human Resource Development Collageという職業訓練学校を2006年に開校しました。同校では、電気科を含む4学科200名の学生が学んでいます。3年間の夜間コースを備えており、当グ

①ケーブルハーネス工場。②サッカーボール工場。③職業訓練学校。④朝礼時の体操も日系企業の影響を受けたもの。

DATA

所在地：Po Box. 4088, No.264 Donnasok Tai Village, Sikhotabong District, Vientiane, Lao PDR

電話：+856-21-550119

設立年：2002

ホームページ：http://libazz.com/veecgroup/



ハイエンド層を取り込む。

WOW Magazine Society

Mr. Suwat Tessalee / CEO

【略歴】1970年生まれ、タイ・バンコク出身のタイ人。中学校は名門スアムクラブ校へ入学。サイアム大学卒業後、バンコクの高級デパート「エンポリウム」で7年間イベント担当。退職後、英ケンジントン・カレッジでマーケティングを学ぶ。タイ帰国後、イベントオーガナイザーのKplustwo Organizerを設立。以降、タイ・ラオスで様々なプロモーション事業に関わっている。

その他サービス

御社の事業内容は？

当社はタイで創業したイベント・オーガナイザーで、「WOW」というプレミアム月刊誌も発行しています。ラオスでも2011年からラオス語版「WOW」の発行を開始し、イベント事業も展開しています。「WOW」は富裕層をターゲットにしており、ファッション、流行の商品、斬新なライフスタイルを紹介する、ラオス唯一のファッションとライフスタイル総合誌です。ラオス人のセレブリティをモデルに起用し、ハイファッションとハイエンド商品に特化しています。この雑誌を軸に据え、フェイスブックやYouTubeなどのオンラインメディアを連動させた、各種イベントも開催しています。とりわけ、毎年1回開催している「Vientiane WOW Fashion Week」は当社最大級のイベントです。

どのようなイベントですか？

「Vientiane WOW Fashion Week」はラオスとタイのブランドが参加する、ラオス国内最大規模のファッションイベントとして定着しています。2017年は3月に開催され、両国から20ブランドが参加し大成功を収めました。また、ミスラオス2016のブツサパーや、タイの人気女優パンケーキをはじめとした、多くの有名人をモデルに起用したことも話題となりました。当社では他にも、ハイネケン、

ペプシ、サムスン、ユニリーバなど、雑誌記事や広告と連動したイベントを成功させています。

テレビ番組制作も？

2016年には「WOW Laos シーズン1」という番組を企画・制作しました。勝ち抜き式でトップモデルを目指すという、オーディションを兼ねたリアリティ番組です。これはラオス国内で大変な人気番組となりました。視聴者からの反響はもちろん、番組スポンサーからも好評を得たため、現在、シーズン2の制作準備に入るところです。番組はインターネットでも視聴が可能となっています。また、2017年からは「ザ・フューチャリング」という音楽オーディション番組も放送開始しました。現在、音楽オーディション番組は世界的にも人気のあるコンテンツです。当社の番組では、国内で高い人気を誇るカイ・オーバーダンスやター（A'Pacts）など4名のスターを審査員に起用しており、非常に反響が大きな番組となっています。オーディション歌手のミュージックビデオも当社で企画・制作しており、動画のネット再生数も非常に高い状況です。

今後の展開は？

タイとラオスで事業を展開してきましたが、これからはインドシナ地域（CLMV）での事業展開を計画しています。手始めとして、近くカンボジアで事業を開始する予定です。タイは競争が激しく、既に雑誌は淘汰される時代になっていますが、新興市場であるCLMVではまだマーケットが成長する余地があります。特にハイエンド層に絞った当社のコンセプトは受け入れられると考えています。また、当社はハイエンド雑誌とイベントの分野では、20年の豊富な経験を有しています。ラオスをはじめCLMVにおける、マーケティング・コンサルタントとしてのサービスも強化する計画です。

日本企業への期待は？

日本の製品やサービスについてもメディア戦略を含め相談に乗ります。消費者行動は2～3年で変化してしまう中、ハイエンド層へ訴求し続けることが重要です。また、日本のAKB48のようなグループを売り出したいと考えていますので、是非とも支援を頂ければと考えています。



①



②

①同社がラオスで発行する富裕層向け月刊誌「WOW」。 ②同社が企画・運営したランニング・スポーツイベント「Unitel 4G party night run」。



建設のプレミアムを追求する。

Xang Lao Engineering Consultants Ltd.

Mr. Thatsnachone Bounthanh / MD

【略歴】1977年生まれ、サワンナケート出身。有明工業高専（建築）、長崎大学（土木工学）卒業。九州工業大学で土木工学修士号取得。日系ゼネコンに就職し、タイやマレーシアで入札や現場監督を務める。帰国後、ラオス南部セボン銅鉱山で建設エンジニアとして7年間勤務。2012年、現社設立。貿易や不動産仲介など3社の共同経営者も兼ねる。ラオスで高層ビルを建設することが目標。

建設

卸売・小売

不動産

デザインも手がけています。

進行中のプロジェクトは？

多くのプロジェクトが進行中ですが、現在特に力を入れて進めているのは不動産開発事業です。土地オーナーと商業銀行、そして当社を加えた三者が提携し、都内二ヶ所でニュータウン開発の準備を進めています。当社は設計・建設を担っています。銀行からの長期融資をパッケージとし、顧客は好みの設計図を選ぶことが出来る仕組みです。注文に応じた建設ですので、建て売りに比べ初期コストが低く、分譲価格も抑えられることから、必ず成功すると期待しています。

日本企業への期待は？

ラオスでは建築資材や内装用品の選択肢がまだまだ限られています。

その点、日本では照明一つとっても種類が豊富な上に、機能美にあふれた製品が多く、当社でも扱いを増やして行きたいと考えています。現在、別会社でドアや床材の販売代理店を展開していますが、今後は壁紙など他には無い製品を増やしていきたいと考えています。また、設計アウトソーシングの受注も将来的に視野に入れていきますので、日本の設計会社とも提携できれば面白いと思います。良いアイデアがあれば、合弁パートナーとなることも歓迎します。これは私やパートナーの夢ですが、いつか自社ビルを建て、そこに建築技術学校を設立することで、ラオスの若いエンジニア養成の場にしたと考えています。この夢はいつかは実現すると信じています。また、ラオスにも日本工業規格（JIS）のような標準化の導入が必要だと感じています。民間企業の一つとしてもラオスの規格策定に参画したいと考えています。

御社の事業内容は？

当社は私を含め3名のパートナーと共に設立した設計、建設、施工管理、内装をフルターンキーで担う建設会社です。設立当初は2名のスタッフで始めましたが、現在は従業員20名を抱えるまで成長しました。私自身は日本で有明工業高専で建築を学び、長崎大学で土木工学学士、九州工業大学で土木工学修士号を取得しました。その後、日本のゼネコンに就職し、主にタイやマレーシアの建設現場で経験を積み、ラオスの鉱山会社でも建築エンジニアとして常に現場に携わってきました。これらの経験を活かし、品質管理や安全管理を徹底することで、顧客コンセプトの具象化に重点を置いたプレミアムな建設を提供しています。

どのような分野の建築を？

得意分野はホテル、高級住宅、アパート、オフィスビル、工場です。これまでルアンパバーンのル・セン・プティックホテルやメコンリバービューホテル、ザ・グランド・ルアンパバーン、メゾン・ダラプア等で実績があり、特にプールの建設には定評があります。また、オフィスビルや工場では日系企業の実績もあります。ラオスでも富裕層は高い品質の住宅を求めており、細部にまで気を使う必要があります。また、カフェチェーンやホテルなどのインテリア



①同社の設計部門。②ラオス国民議会新ビルのコペティションでの出品。③メコンリバービューホテル。④高級住宅とランドスケープの設計。

DATA

所在地： P.O.Box 10.073, No.481 Ban Phonthan, Saysettha District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-30-777-5577

設立年： 2012

ホームページ： www.xanglao.la



畜産から食肉加工まで幅広い展開。 XP Trading Lao-Chine Co., Ltd. Mr. Xayphone Phouthavong / President

【略歴】1970年生まれ、ピエンチャン出身。高校卒業後、親類が経営する写真店でカメラマンとして働きながら英語や中国語を学ぶ。1997年、写真用印画紙の輸入商社を設立。2003年、全国の農村で深井戸掘削事業を開始。2008年、トウモロコシ用サイロへの投資を始めたことがきっかけとなり、畜産飼料、養豚、肉牛飼育、屠畜場、養魚、食肉加工へ事業を拡大。

農林・水産・畜産

製造

卸売・小売

その他サービス

御社の事業内容は？

当社は1997年に中国から写真用印画紙の輸入販売を行う会社としてスタートしましたが、現在は畜産業が中心事業となっています。2003年には深井戸掘削事業に参入しました。当時、ラオスでは各地で政府や援助機関による井戸掘削が進められていたため、アメリカで技術研修を受け、機材も調達して事業化に繋がりました。この事業では全国の農村を廻りましたが、そこで目にしたのは国際市場の影響を受け困窮する農家の現状でした。そこで、2008年にシェンクワン県やピエンチャン郊外に、トウモロコシ用サイロを200基建設。ここでは、周辺農家が栽培したトウモロコシを年2万トンほど買い付け、当社の飼料工場で大豆粉末やビタミン等を添加した畜産飼料を製造しています。現在、日産50から80トンの生産量を誇ります。2012年からは養豚事業を開始しており、現在350頭の母豚から、年間5,000頭の食用豚を飼育しています。更に、養豚場から排出される糞を利用した100ヘクタールの牧草栽培とともに、肉牛（ブラーマン種等）の飼育や淡水魚の養殖も開始しています。これらのビジネスモデルはラオス全土に可能性があり、今後も拡大路線で行く計画です。

食肉加工にも参入を？

2016年にハンガリー企業と合弁で

会社を設立し、ラオス政府が保有する屠畜食肉加工場を借り受けました。この工場はハンガリー政府の支援を受けた施設で、衛生面も優れており、冷蔵倉庫での熟成処理が可能です。ソーセージやハム、ビーフジャーキーなどの食肉加工を行い、「ラオ・フレッシュ・ミート（シンソットラオ）」ブランドで国内販売を行っています。

主な販売先は？

熟成させた生鮮肉や加工肉は一般市場やスーパーで販売するだけでなく、ホテルやレストランにも卸販売しています。また、子会社が運営しているラオフレッシュミート店舗でも販売しています。自社店舗は現在まだ2店舗ですが、今後は全国各地にある生鮮市場に出店し、清潔で品質の高い食肉を供給したいと考えています。また、ベトナムへの輸出準備を進めており、近い将来、中国や

タイ、シンガポールへの輸出も視野に入れていますが、中国ラオス鉄道が2021年に完成することから、中国向け輸出は商機があると考えています。

日本への期待は？

当社は私一人では知識や資金にも限界があることから、多くの方々の協力を得ながら発展してきました。畜産飼料や養豚ではアメリカ人専門家を、食肉加工ではレストラン経営者をパートナーとしています。新たな取り組みとしては、豚糞から発生するメタンガスを利用した自家発電設備の導入を検討しています。ここでも専門家や経験者の力が必要になります。日本企業には畜産や食肉加工の技術や設備、また家畜品種における提携を期待しています。当社は引き続きラオス全国で畜産業を拡大していく計画ですので、有力なパートナーを常に求めています。



①ラオ・フレッシュ・ミート店舗。②写真印刷機。③清潔に包装されたラオ・フレッシュ・ミートの商品。④配送用トラック。

DATA

所在地： No.133/04 Samsenthai Rd., XiengYueun Village, Chanthabuly District, Vientiane, Lao PDR

電話： +856-21-217425





設立年： 1997

ホームページ： <http://xptrading.net>

本書に掲載した写真に関して

本書に掲載した写真は基本的にジェトロが直接撮影したものを使用していますが、以下に記載する写真については、インタビューを実施した各社から提供を受けたもの、もしくは公式ホームページや公式 Facebook ページから同社の承認を得たものを使用しています。

【表紙】

写真	出所
	同社提供
	同社提供
	同社提供
	同社提供

【本文】

ページ	企業名	写真	出所
7	AMZ Group Co., Ltd.	①、②、③、④	同社提供
8	Balamy Trading Export-Import Co., Ltd.	④	同社提供
10	Century21 Real Pro Co., Ltd.	③、④	同社 Facebook ページから
11	Chinda Silk & Cotton Crafts	③、④	同社提供
14	Ekphatthana Microfinance Institution (EMI)	③、④	同社提供
15	Events for Good	①、②	同社 Facebook ページから
16	Exo Travel Laos Co., Ltd.	③、④	同社提供
19	Hung Huang (Lao) Logistics Co., Ltd.	顔写真、①、②、③、④	同社提供
20	iJobs Company Ltd.	③、④	同社提供
21	Indee Record / Samart Event Organizer	①、③、④	同社提供
22	KPN Pharma Sole Co., Ltd.	④	同社提供
24	Lao Art Media Co., Ltd.	③、④	同社 Facebook ページから
27	Lao Dairy Farm	①、②、③、④	同社提供
30	Lao Mobile Group Co., Ltd.	顔写真	同社提供
32	寮都産業株式会社	①、②、③、④	同社提供
33	MV International Co., Ltd.	③、④	同社提供
38	Phousy Group	顔写真、①、②、③、④	同社提供
39	Phutawen Tourism Co., Ltd.	①、②、③、④	同社提供
40	ProCon Co., Ltd.	①	同社提供
44	SI Hospitality Consultings	①	同社提供
51	TV Lao Co., Ltd.	④	同社提供
52	VEEC Group	②、③	同社提供
53	WOW Magazine Society	顔写真、②	同社提供
54	Xang Lao Engineering Consultants Ltd.	②、③、④	同社提供

JETRO

LAOS 100

ラオスの有カビジネスパーソン 100人 - 後編 -

発行日：2018年3月

発行者：日本貿易振興機構（ジェトロ）

〒107-6006 東京都港区赤坂1丁目12-32

アーク森ビル（総合案内6階）

TEL.03-3582-5511

<https://www.jetro.go.jp/>

制作：ジェトロ・ピエンチャン事務所

編集：SYNC Design Co., Ltd.

撮影：KMC LAO Sole Co., Ltd.

【著作権について】本レポートの著作権はジェトロに帰属します。本文の内容の無断での転載、掲載等はお断りいたします。

【免責について】ジェトロは、本報告書にの記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。
